目　　次

【1】　概要 …… 1

【2】　特長 …… 1

【3】　機種一覧 …… 1

【4】　各部の名称と働き …… 2

【5】　ブロック図 …… 3

【6】　バーグラフ表示 …… 3

【7】　表示モード …… 4

【8】　外形・裏面端子図・取付孔 …… 5

【9】　仕様 …… 6

【１０】デジタル表示のゼロ値（最小表示値）の設定及びゼロ交正 …… 7

【１１】デジタル表示のフルスケール値（最小表示値）の設定及び入力信号のスパン校正 …… 9

【１２】時限の設定 …… １１

【１３】バー表示の切換（受信計のみ） …… １２

【１４】上限及び下限警報の設定 …… １３

【１５】警報出力リレーの出力ディレー時間設定 …… １４

【１６】警報動作の上限動作・下限動作切換 …… １５

【１７】警報出力ＯＮ出力・ＯＦＦ出力切換設定 …… １６

【１８】警報設定範囲の設定 …… １７

【１９】移動平均のサンプルデータ数の設定 …… １８

【２０】デジタル表示周期の設定 …… １９

【２１】マイナス表示の設定（受信計のみ） …… ２０

【２２】バーゼロ点の設定 …… ２１

【２３】最小単位のまるめ設定 …… ２２

【２４】最大・最小残針のリセット …… ２３

【２５】外部よりの表示切換 …… ２３

【２６】警報出力の表示 …… ２３

【１】概要

この指示計は、発電所、変電所、工場、ビル等の受配電設備監視のデジタル化に伴い開発されたデマンド表示計で、従来のアナログ式デマンドメータの特長を残して、アナログ表示とデジタル表示が可能な、デジタル・アナログ両用デマンドメータです。

【２】特長

・従来のアナログ指示による人間への直感を残すバーグラフを実装しています。
・数字として読み取れるデジタル表示を併用しています。
・最大需要値は更新されリセットされるまで保持します。
・停電時、最大需要値、（最小需要値）は記憶され保持します。
・前面パネルのスイッチと、外部からのリセット入力により、最大需要値（最小需要値）をリセットできます。
・警報設定が可能です。
・従来の１１０mm広角度指示計器と取り付け寸法が同じです。

【３】機種一覧

☆形名表

RG － 1 － 0 － 1 － B － A1 － B

機　種	
0	整定無し
1	上限整定
2	上下限整定

需要指針	
0	指針無し
1	最大
2	最大・最小

電　源	
B	DC２４V±１０%
Z	AC８５～２６４V DC８５～１４３V

入　力			
A1	AC５A	1	DC０～１mA
A2	AC１A	2	DC４～２０mA
V1	AC１５０V	3	DC０～１V
V2	AC３００V	4	DC１～５V
V4	$\frac{AC150}{\sqrt{3}V}$	5	DC０～５V

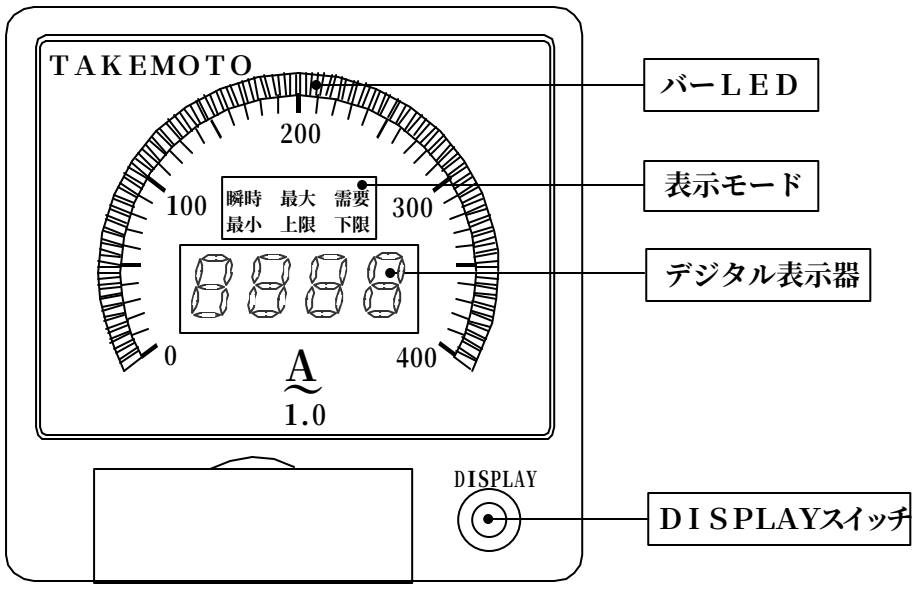
目盛板色	
B	黒色
W	白色

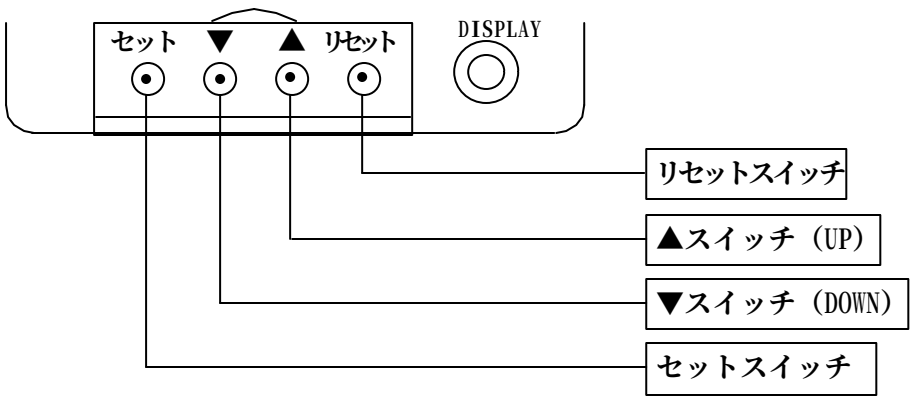
☆形名比較表

用途	受信指示形	受信指示形	受信指示形	需要電流計	需要電圧計
形名	RG－１００	RG－１１１	RG－１２２	RG－１１１	RG－１２２
残針	なし	最大値	最大値 最小値	最大値	最大値 最小値
警報	なし	上限	上限、下限	上限	上限、下限
測定入力	DC４～２０mA DC０～１mA DC０～１V DC１～５V DC０～５V			AC５A AC１A ５０／６０Hz	AC１５０V AC３００V AC１５０／√３ ５０／６０Hz

【4】各部の名称と働き

正面図





バーＬＥＤ

需要値（時限付の場合）の表示

＊時限なしの場合は瞬時値の表示

表示モード

デジタル表示器の表示内容を表示します。

デジタル表示器

瞬時値、最大需要値、需要値、最小需要値、上限設定値、下限設定値等を切換表示します。

ＤＩＳＰＬＡＹスイッチ

デジタル表示器の表示内容を切換える時に使用します。

リセットスイッチ

最大需要値、最小需要値をリセットします。

△スイッチ（ＵＰ）

上下限設定、フルスケール設定等で、設定値を大きくする時に使用します。

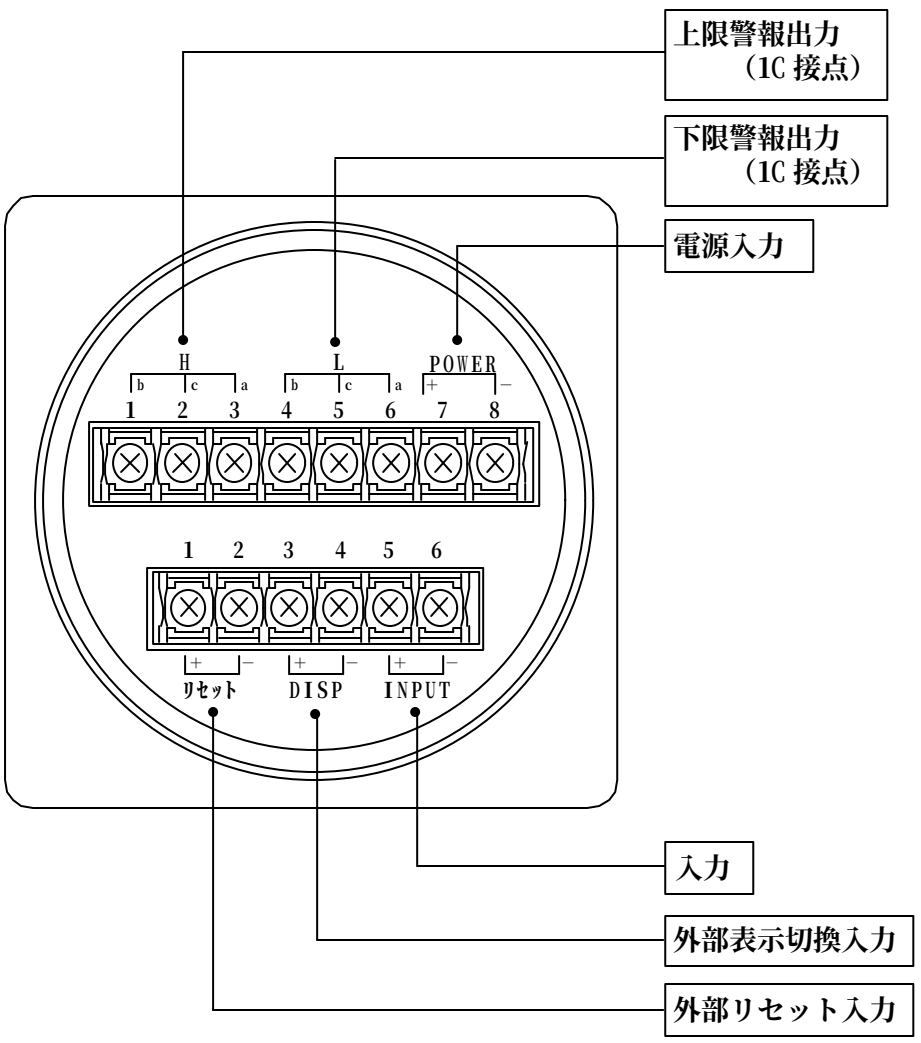
▽スイッチ（ＤＯＷＮ）

上下限設定、フルスケール設定等で、設定値を小さくする時に使用します。

セットスイッチ

上下限設定、フルスケール設定等各種設定値を変更します。

裏面図



上限警報出力（１Ｃ接点）

ＲＧ－１２□　及びＲＧ－１１□

（ＲＧ－１０□にはありません。）

下限警報出力（１Ｃ接点）

ＲＧ－１２□のみ

（ＲＧ－１０□　及びＲＧ－１１□にはありません。）

電源入力　（補助電源を供給して下さい。）

ＲＧ－１□□－Ｂ：ＤＣ２４Ｖ

Ｚ：ＡＣ８５～２６４Ｖ，ＤＣ８５～１４３Ｖ

入力

Ａ１：ＡＣ５Ａ	１：ＤＣ０～１ｍＡ
Ａ２：ＡＣ１Ａ	２：ＤＣ４～２０ｍＡ
Ｖ１：ＡＣ１５０Ｖ	３：ＤＣ０～１Ｖ
Ｖ２：ＡＣ３００Ｖ	４：ＤＣ１～５Ｖ
Ｖ４：$\frac{\text{ＡＣ１５０}}{\sqrt{3}\text{Ｖ}}$	５：ＤＣ０～５Ｖ

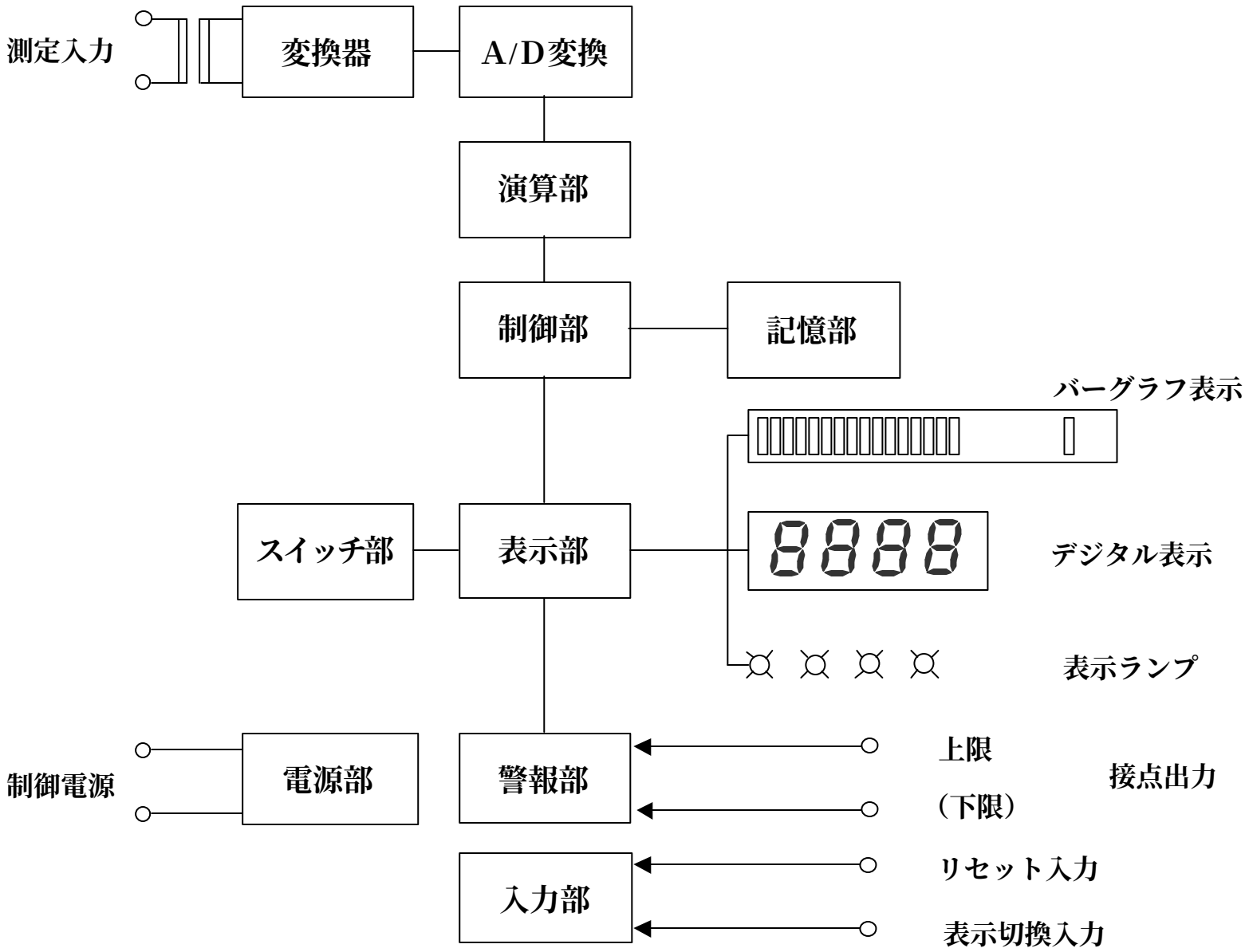
外部表示切換入力

デジタル表示器の表示内容を切換える時に使用します。

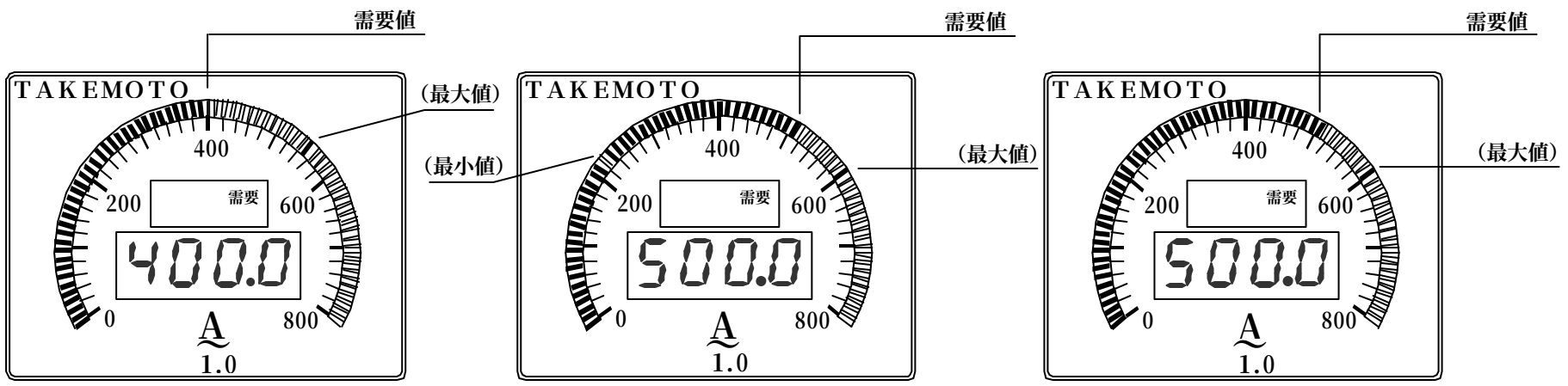
外部リセット入力

最大需要値、最小需要値をリセットします。

【5】ブロック図



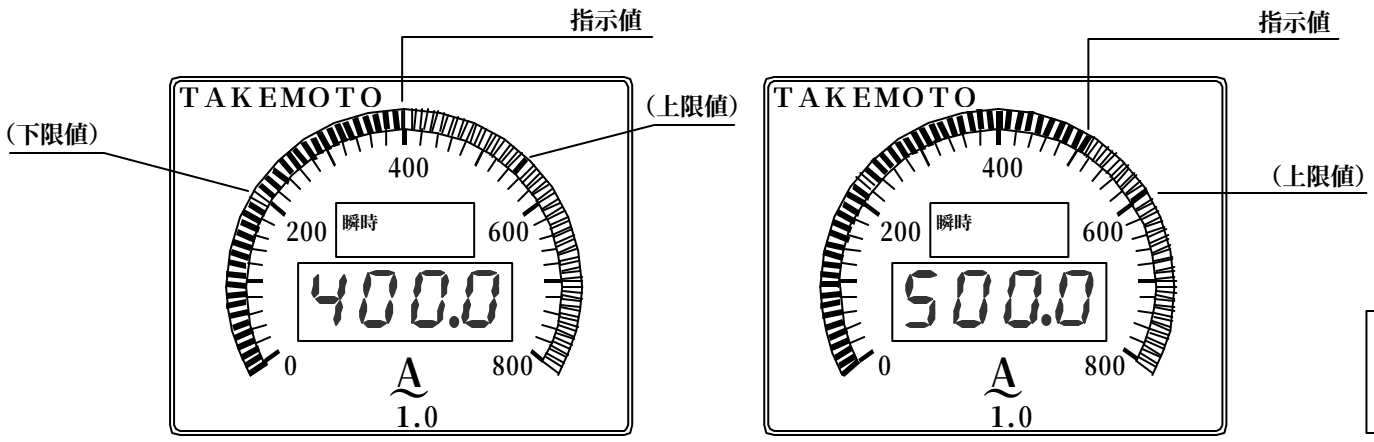
【6】バーグラフ表示



RG－１０１
デマンドメータ（最大需要計）

RG－１０２
デマンドメータ（最大・最小需要計）

RG－１１１
デマンドメータ（メータリレー）



RG－１２０
デマンドメータ（メータリレー）

RG－１００
指示計（受信指示計）

⚠（　）の表示モードは表示切換え
スイッチにて表示されます

【７】表示モード

①各モードの名称と働き

各モード共、バーＬＥＤは、需要値（時限が０秒以外の時）[時限が０秒の時は、瞬時値] を表示します。

瞬時：現在の瞬時値を表示します。

最大：現在までの最大需要値を表示します。
　　時限が０秒の場合は、１００m秒毎の最大値（ピーク値）を表示します。
　　但し、最大残針なしの場合、表示されません。

需要：現在の需要値を表示します。
　　但し、時限が０秒の場合、表示されません。

最小：現在までの最小需要値を表示します。
　　時限が０秒の場合は、１００m秒毎の最小値（ボトム値）を表示します。
　　但し、最小残針なしの場合、表示されません。

上限：上限警報設定値を表示します。
　　残針なし又は、警報設定時 設定値バー表示機能付の場合、バーＬＥＤに設定値バーが表示されます。
　　但し、上限警報なしの場合、表示されません。

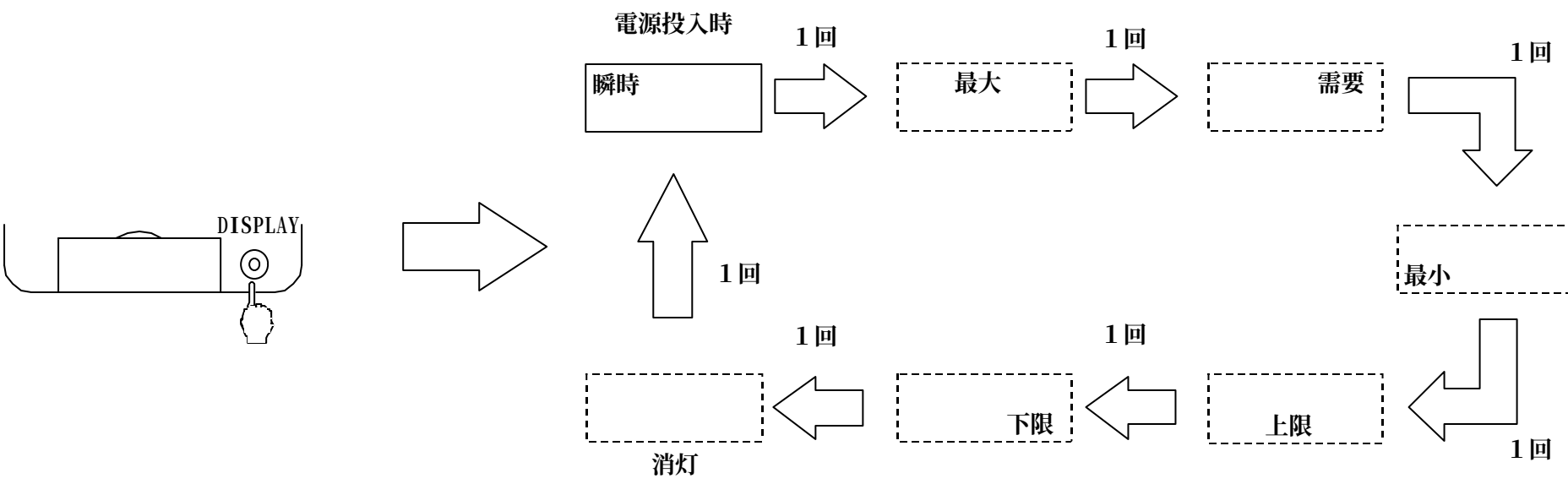
下限：下限警報設定値を表示します。
　　残針なし又は、警報設定時 設定値バー表示機能付の場合、バーＬＥＤに設定値バーが表示されます。
　　但し、下限警報なしの場合、表示されません。

消灯：デジタル表示器、表示モードは全て消灯し、バーＬＥＤは現在の需要値の１バーのみ点灯します。
　　（上限又は下限警報出力中は、『上限』又は『下限』のモード表示が点滅します。）

②表示モードの切換え

電源投入時は、表示モードは、『瞬時』となっています。

表示モードは、「ＤＩＳＰＬＡＹ」スイッチを１回押す毎に、



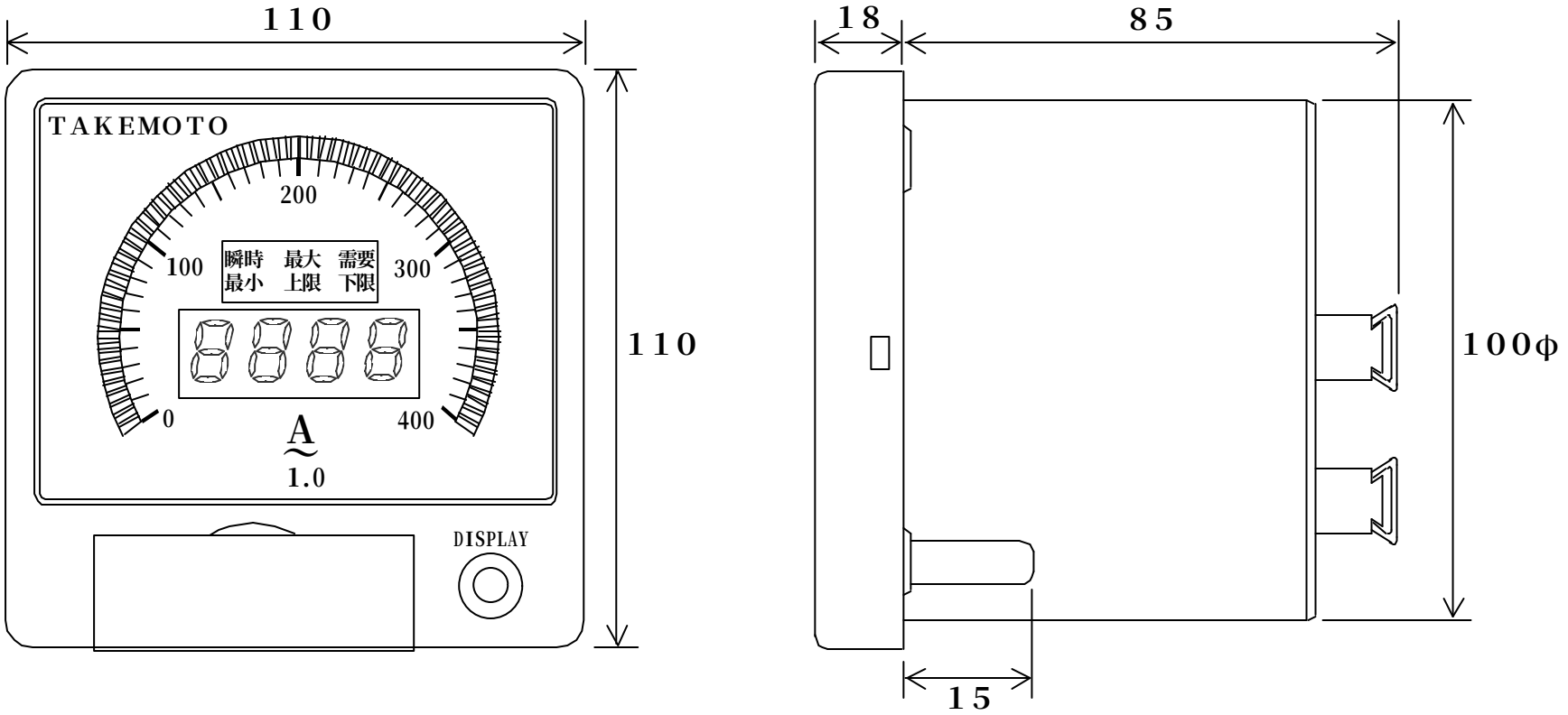
と変わります。

但し、[　　] 内の表示モードは、機種により表示されません。

＊一次定格（ゼロ値、フルスケール値）及び時限の設定中は、「ＤＩＳＰＬＡＹ」スイッチによる表示モードの変更は出来ません。

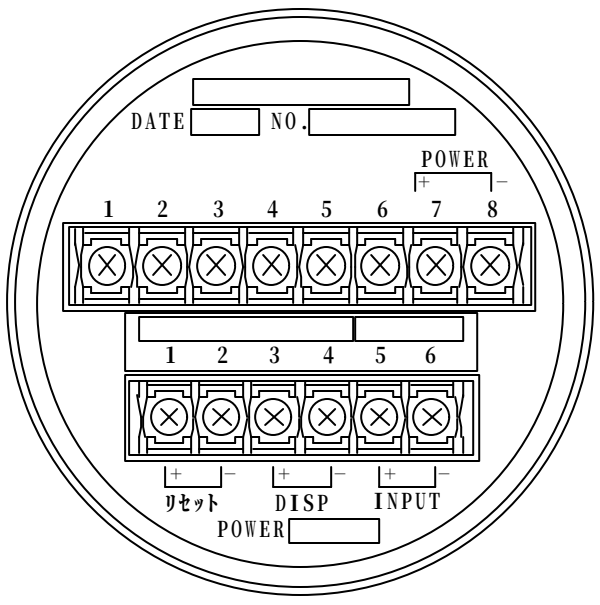
【8】外形・裏面端子図・取付孔

外形寸法図（各種共通）

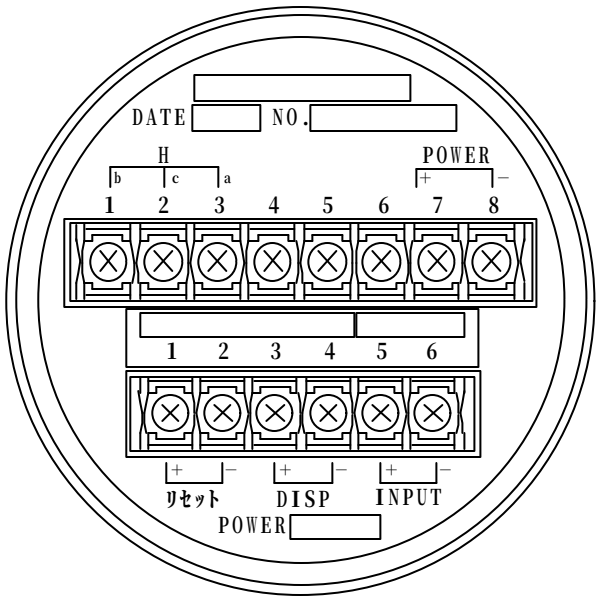


裏面端子図

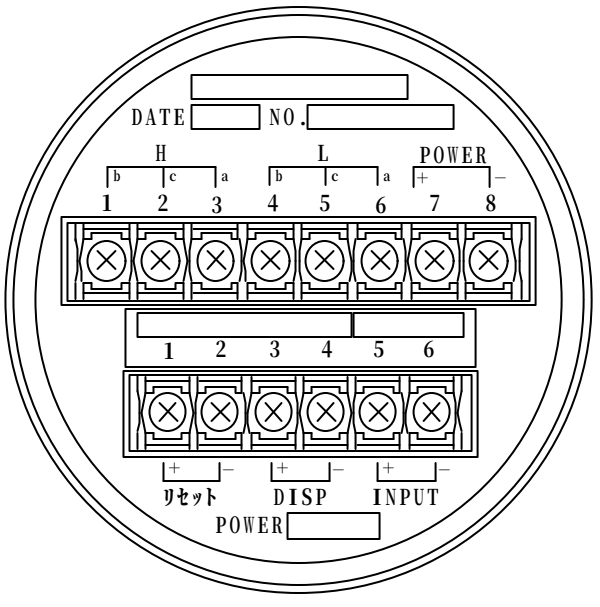
指示形　RG－10□



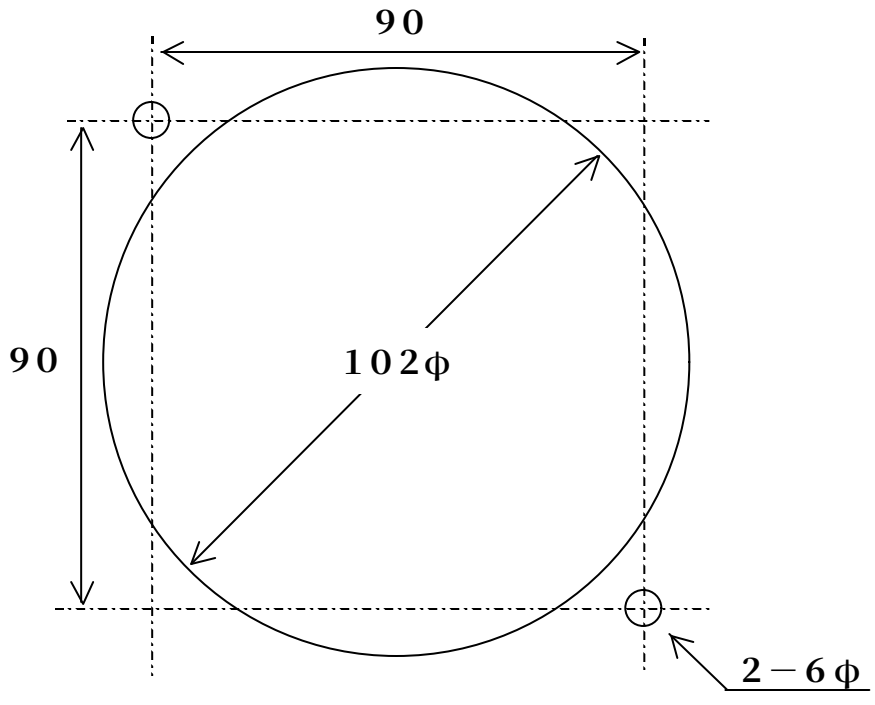
上限設定付　RG－11□



上・下限設定付RG－12□



取付孔

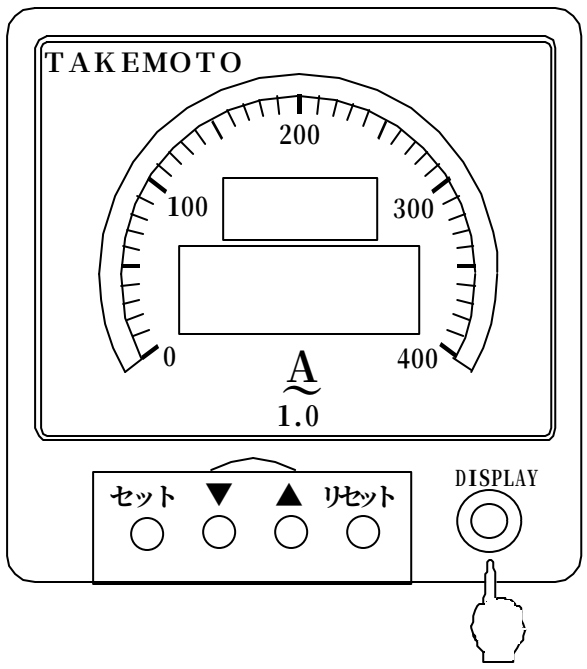


【9】仕　様

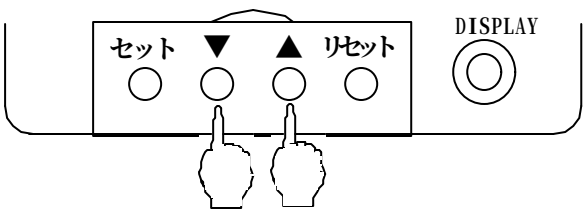
項目		概　　要
準拠規格		ＪＩＳ　Ｃ　１１０２　準拠
表示器		バーグラフ部　：緑色１０１ドット デジタル表示部：赤色７セグメント　赤色数字高さ１３mm　４桁0～９９９９（最大分解能１／５００）
精度		バーグラフ部：±（１%±１digit）　　デジタル表示部：±（０．５%±１digti）
応答時間		０．５秒
許容差		バーグラフ表示　　±１%（ＦＳに対して） デジタル表示部　　分解能１／５００
温度の影響		２３℃±２０℃で許容差内
測定入力		交流入力用　電流入力用　ＡＣ５Ａ又は、ＡＣ１Ａ（５０／６０Ｈｚ共用） 電圧入力用　ＡＣ１５０Ｖ又は、ＡＣ３００Ｖ ＡＣ１５０Ｖ／√３（５０／６０Ｈｚ共用） 直流入力用　電流入力用　ＤＣ４～２０mA又は、ＤＣ０～１mA 電圧入力用　ＤＣ０～１Ｖ又は、ＤＣ１～５Ｖ又は、ＤＣ０～５Ｖ
時限 最終定常値の ９５%±１．５%に 達する時間		瞬時指示：０．５秒以下 需要指示：0,１０,２０,３０,４０,５０秒 1,2,3,4,5,6,7,8,9,１０,１５,２０,２５,３０分
動作方式		実効値計測，熱動演算方式
停電保証		最大需要値、(最小需要値)、警報設定値、スパン値をＥＥＰＲＯＭに記憶
リセット機能		前面パネルのリセットスイッチで最大需要値、(最小需要値）をリセット 外部端子へ制御電源と同じ電圧を５００ｍｓ以上印加で最大需要値をリセット
制御電源		ＡＣ８５～２６４Ｖ（１０ＶＡ以下)、DC８５～１４３Ｖ（１０W以下)、DC２０～２８Ｖ（１０W以下）
過負荷強度		交流電流入力計　　定格の４０倍　　１秒間　２回　　１．２倍連続 交流電圧入力計　　定格の２倍　０．５秒間　９回次いで５秒間１回　　１．２倍連続
絶縁抵抗		入力・制御電源・警報出力・ケース相互間 ＤＣ５００Ｖメガーで５０MΩ以上
耐電圧		ＡＣ２０００Ｖ　５０／６０Ｈｚ　１分間 入力、制御電源、警報出力一括　⇔　ケース相互間 入力一括　⇔　制御電源一括間 入力一括　⇔　警報出力一括間
インパルス耐電圧		５ｋＶ　１．２／５０μｓ　正負極性印加 電気回路一括　⇔　ケース間
使用範囲		温度範囲　－１０℃～＋５０℃　　湿度範囲　４０～８５%ＲＨ（結露しない事）
保存温度範囲		－２０℃～＋７０℃
オプション仕様	警報出力	需要値が整定値に達すれば警報を出力 接点構成　無電圧　１ａ接点 接点容量　ＡＣ２５０Ｖ　２Ａ，ＡＣ３０Ｖ　２Ａ（抵抗負荷）
	警報設定方法	本体前面パネルのスイッチを使用
	警報設定範囲	０～１００%（フルスケールに対して）

【10】デジタル表示のゼロ値（最小表示値）の設定及びゼロ校正

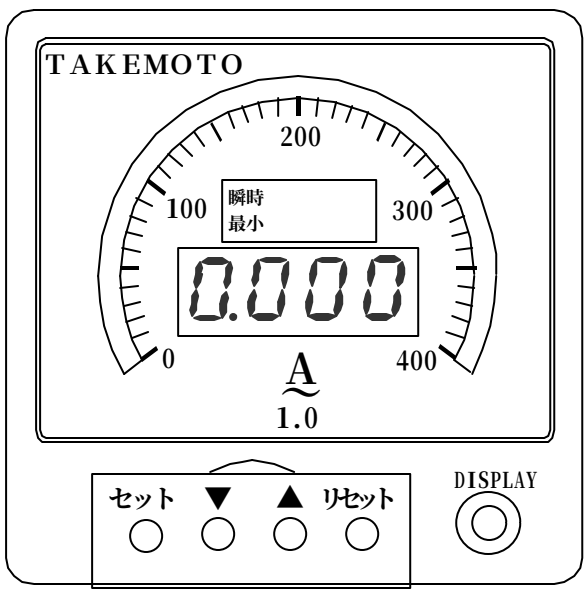
「DISPLAY」を押して、表示モードを消灯とします。



スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に約２秒間押し続けて下さい。



『瞬時』モードが点灯し、『最小』モードが点滅し、ゼロ設定モードとなります。



ゼロ校正を行なう場合

ゼロ校正（入力信号の最小値の設定）を行なう場合

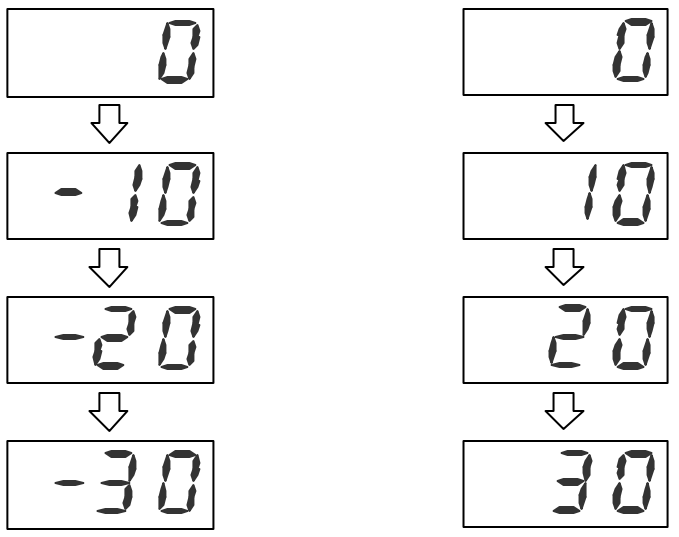
①ゼロ値の設定モードの際に、「▲」と「▼」を同時に押してゼロ校正モードにします。
この際、表示モードは『瞬時』と『最小』両モードが点灯し、デジタル表示器はゼロ値が表示されています。

②ゼロとしたい入力信号を入力して下さい。
「セット」が押された時、入力されていた入力信号が、入力信号のゼロとして記憶されます。

再度「▲」と「▼」を同時に押すと、ゼロ値の設定モードに戻ります。

[ゼロ値変更機能付の受信計]

「▲」を押すと、デジタル表示のゼロ値は大きく（加算）なり、
「▼」を押すと、ゼロ値は小さく（減算）なります。
（但し、ゼロ値は、１０単位でしか設定できません。最下位の桁は“０”となります。）

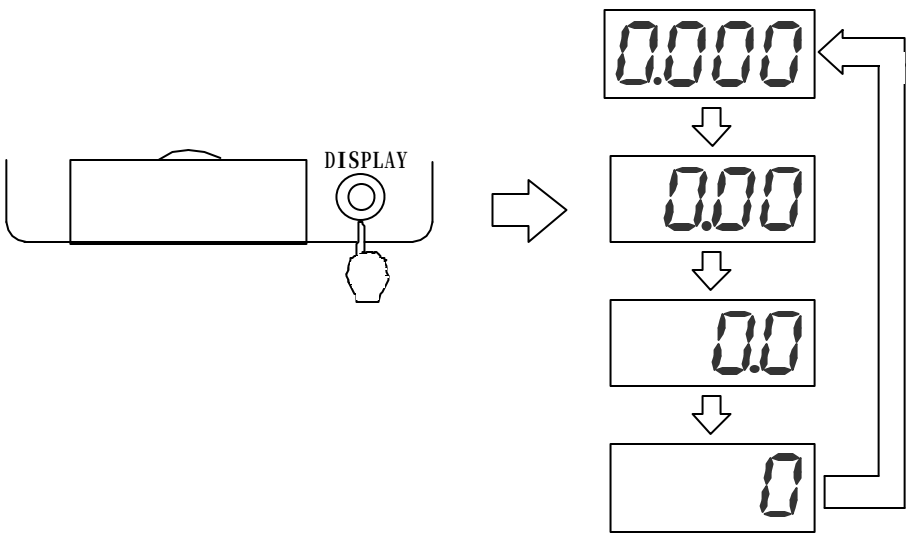


「▲」又は「▼」を押し続けると連続してゼロ値が加減算され、さらに、押し続けると加減算速度が加速されます。

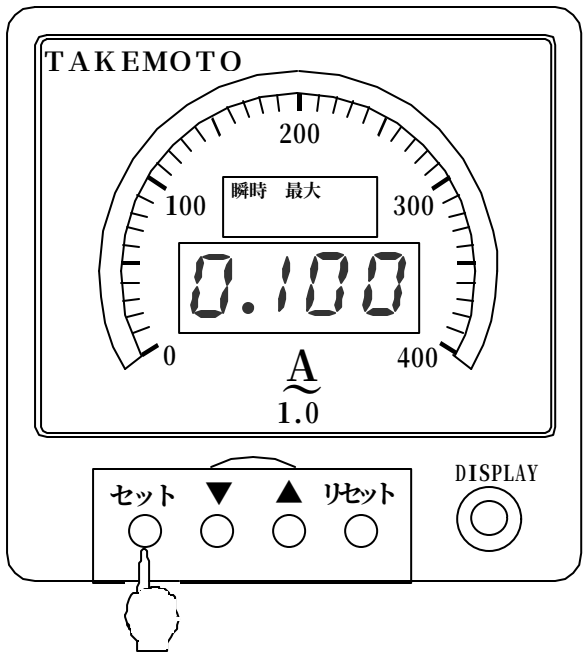
「▲」スイッチは、フルスケール値－１０
「▼」スイッチは、－１９９０
に達すると、それ以上減算されません。

－１９９０≦ゼロ値≦（フルスケール値－１０）＜フルスケール値

「DISPLAY」を押すことにより小数点位置を変えることができます。

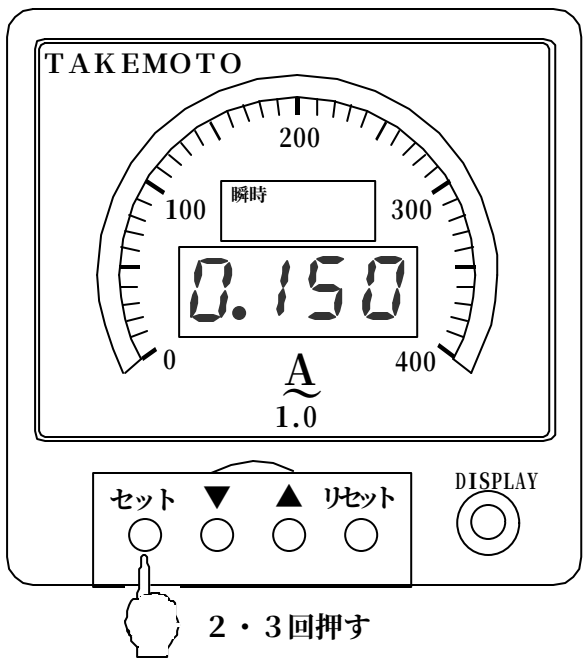


デジタル表示が、設定したい値となれば「セット」を押して
下さい（フルスケール設定になります。）
ゼロ校正モードの場合は、「セット」が押された時、入力され
ていた入力信号が入力信号のゼロとして記憶されます。



＊電圧計，電流計では、
ゼロ値設定はできません。
ゼロ校正のみ可能です。

＊変更不要の場合、「セット」を２・３回押すと瞬時表示値となります。



ゼロ設定 ⇨ フルスケール設定 ⇨ 時限設定 ⇨ (バー切換) ⇨ 瞬時値

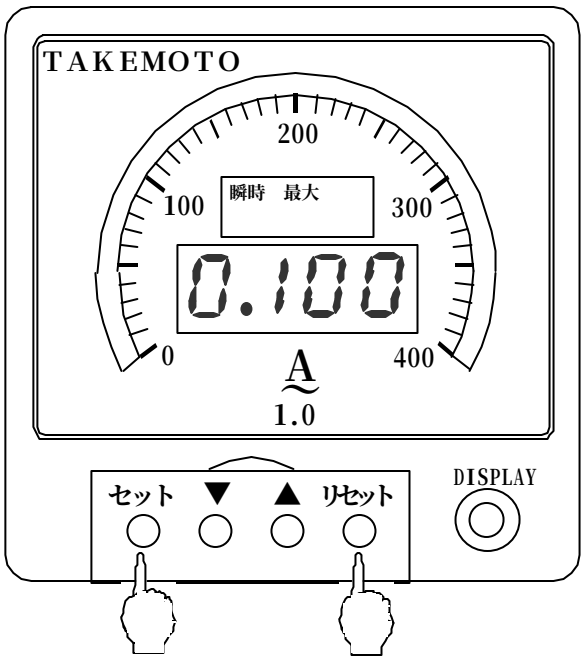
「セット」スイッチを押す

＊（バー切換）は、無い機種もあります。

入力信号がゼロ校正範囲（フルスケールの約２０％）を超えた場合、ゼロ校
正範囲上・下限値となります。

０　　１００　　３００　　　　１０００
ゼロ下限⇔基準ゼロ⇔ゼロ上限 ---------- フルスケール

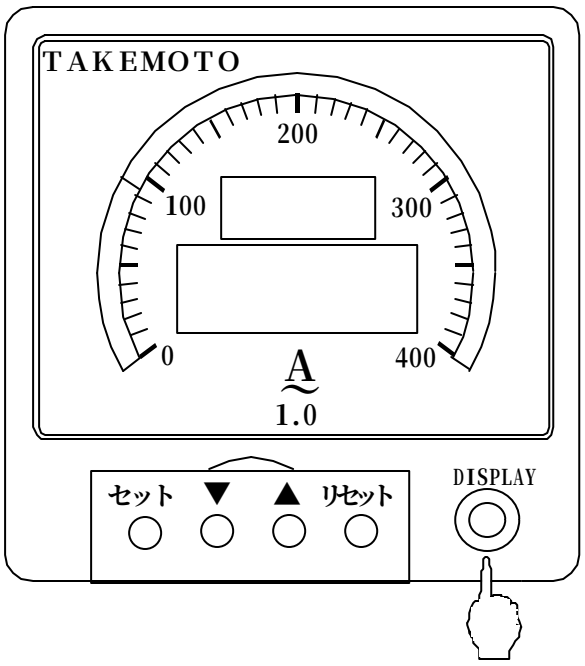
ゼロ校正モードで、「リセット」を押しながら「セット」を
押すと、基準のゼロ値が入力信号のゼロとして記憶されます。



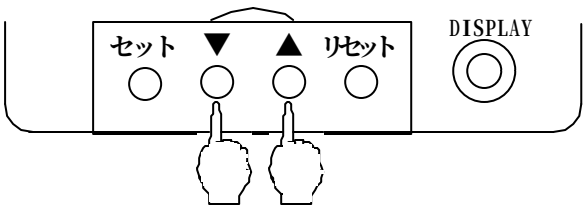
ゼロ値をフルスケール値以上に設定する場合は、先にフルスケール
を設定して下さい。

【11】デジタル表示のフルスケール値（最大表示値）の設定及び入力信号のスパン校正

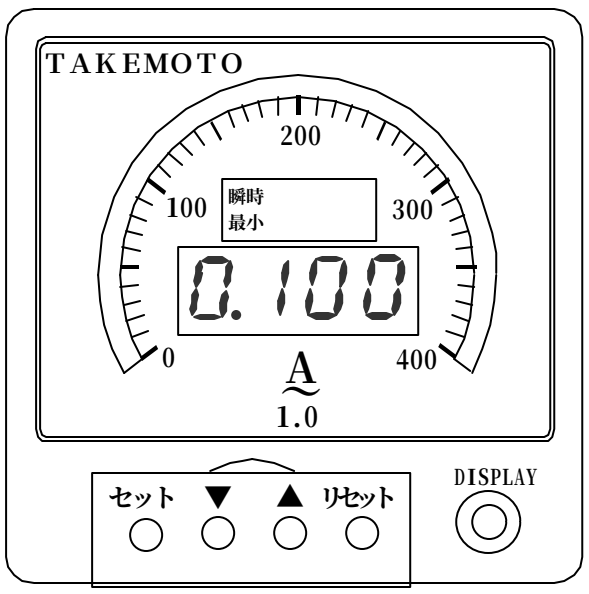
「DISPLAY」を押して、表示モードを消灯とします。



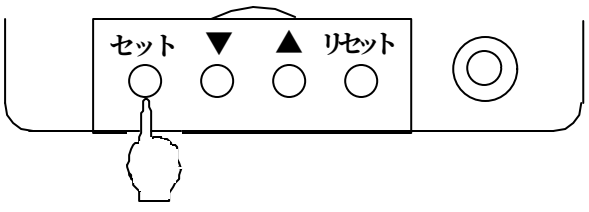
スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に約２秒間押し続けて下さい。



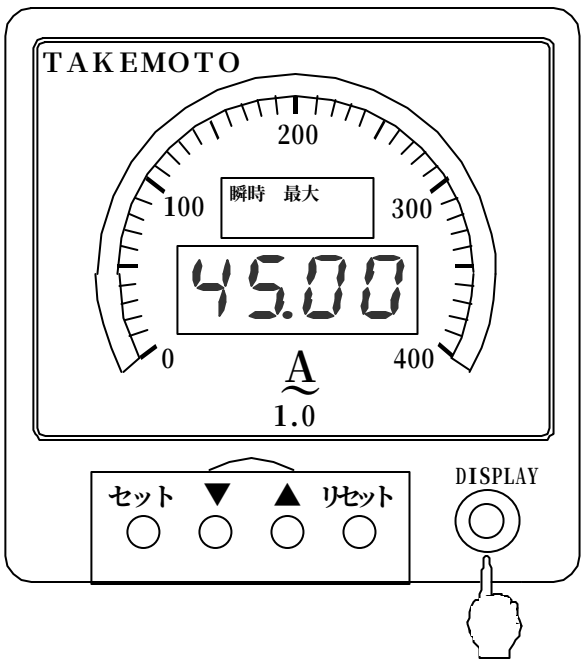
『瞬間』モードが点灯し、『最小』モードが点滅し、デジタル表示器にデジタル表示のゼロ値が表示されゼロ値の設定モードとなります。



ゼロ値が変わってないことを確認して、「セット」を押して下さい。



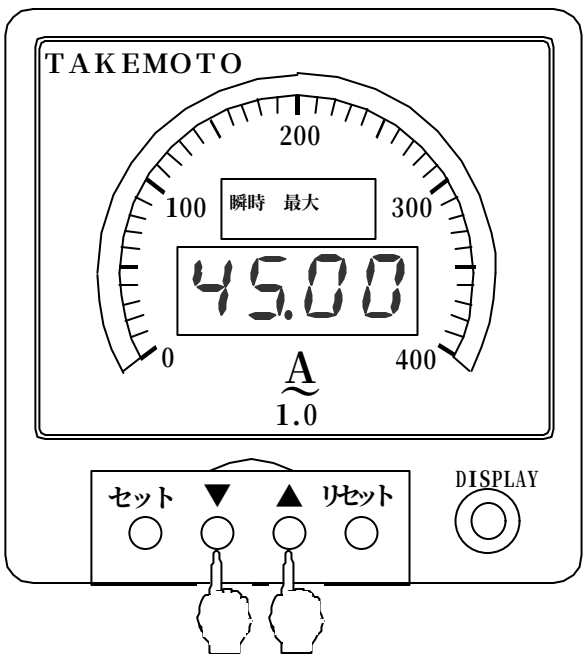
『瞬時』モードが点灯し、『最大』モードが点滅し、フルスケールの設定モードに戻ります。
デジタル表示器フルスケール値が表示されます。



スパン校正を行う場合

スパン校正を行う場合

フルスケール設定モードで「▲」と「▼」を同時に押すことにより変えられます。
スパン校正モードでは、『瞬時』と『最大』両モードが点灯します。
デジタル表示器には、フルスケール値が表示されています。



スパン値としたい入力信号を入力しておいて下さい。
「セット」が押された時に入力されていた入力信号が入力信号の最大値として記憶されます。

＊スパン校正モードで、再び「▲」と「▼」を同時に押すと、
　フルスケール値の設定モードに戻ります。

電圧計・電流計の場合

一次ＰＴ又はＣＴ定格が「▲」又は「▼」で順次表示されます。この時、小数点位置も同時に変更されます。

受信計の場合

「▲」を押すとデジタル表示のフルスケール値は大きく（加算）なり、「▼」を押すと、フルスケール値は小さく（減算）なります。

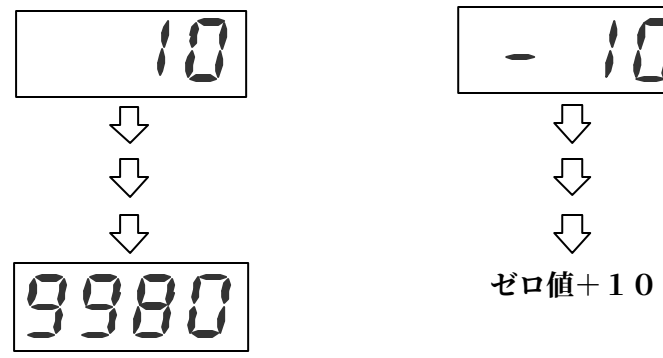
スイッチを押し続けると連続して、フルスケール値が加減算され、さらに押し続けると加減算速度が加速されます。

「▲」スイッチは、９９８０

「▼」スイッチは、ゼロ値＋１０

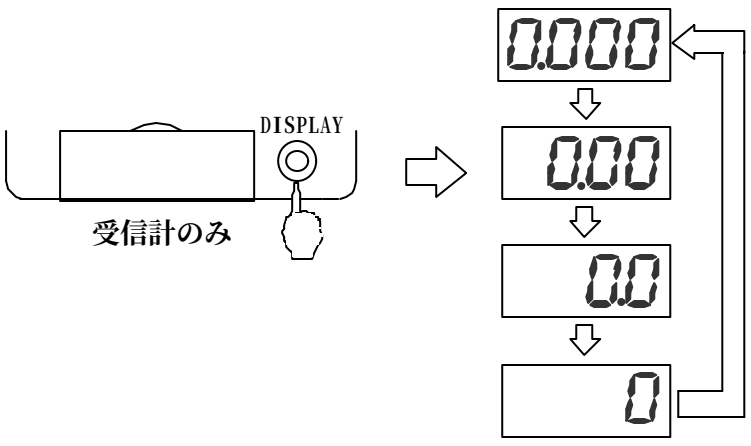
に達すると、それ以上加減算されません。

ゼロ値＜（ゼロ値＋１０）＜フルスケール値≦９９８０



フルスケール値は、１０単位でしか設定できません。
最下位の桁は、“０”となります。
又、９０００以上となった場合は、２０単位となります。

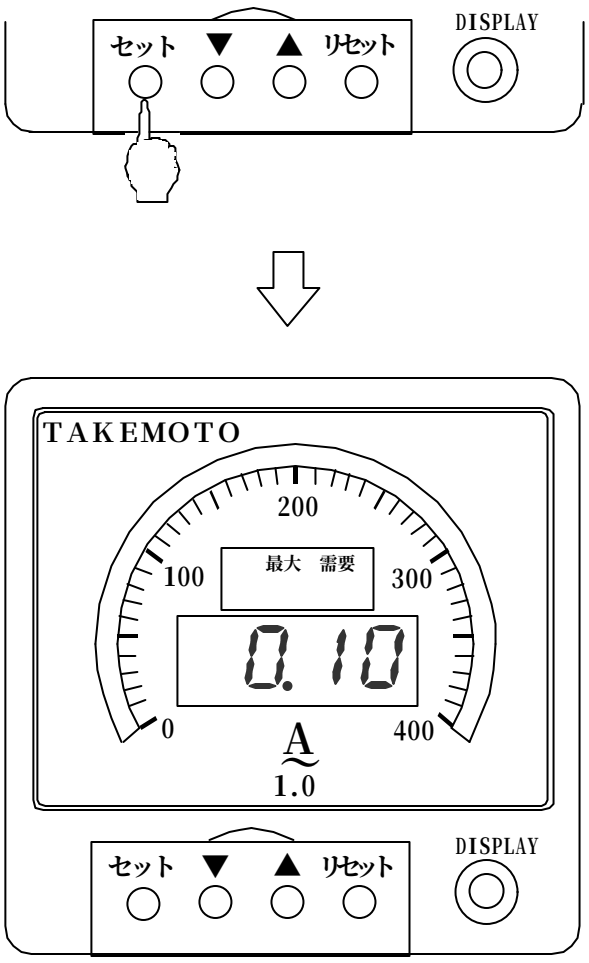
受信計では、「DISPLAY」を押すことにより小数点位置を変えることができます。
電圧計・電流計では、「DISPLAY」スイッチでは小数点位置を変えることができません。



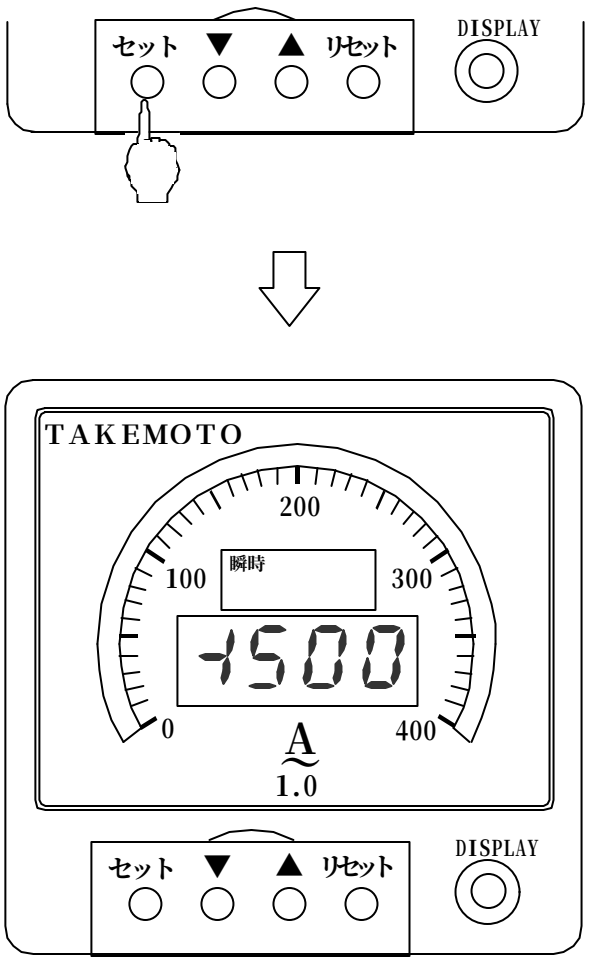
入力信号が、スパン校正範囲（約２０％）を外れた場合、スパン校正範囲上・下限値となります。

０－１００・・・・・８００⇔１０００⇔１０２３
基準ゼロ　　スパン下限　基準スパン　スパン上限

デジタル表示が、設定したい値となれば「セット」を押して時限設定として下さい。

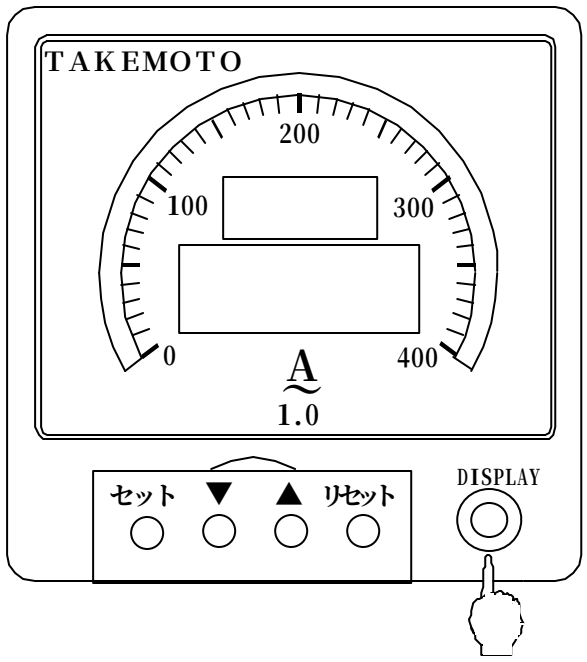


時刻設定変更不要の場合は、「セット」をもう一度押して瞬時値表示として下さい。

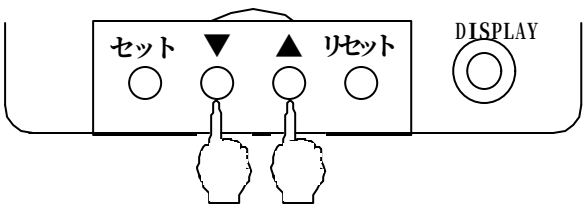


【12】時限の設定

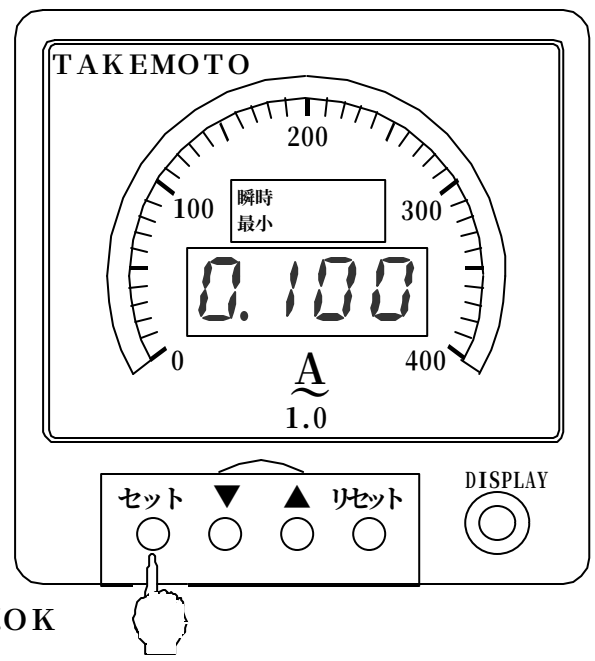
「DISPLAY」を押して、表示モードを消灯とします。



スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に約２秒間押し続けて下さい。

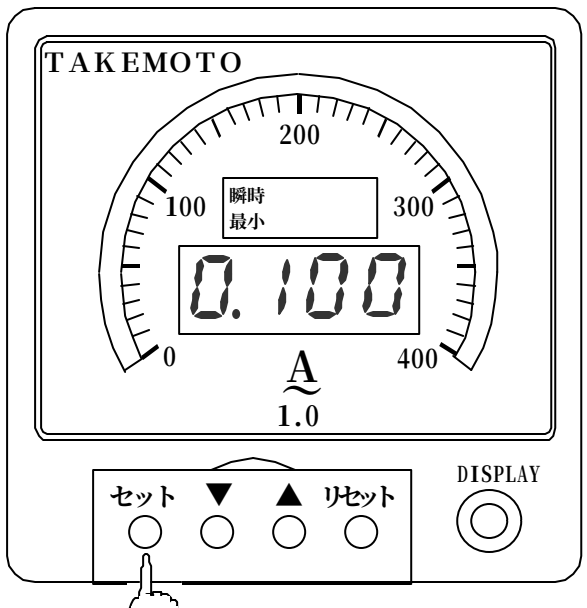


『瞬時』モードが点灯し、『最小』モードが点滅し、ゼロ設定モードとし、ゼロ値が変わってないことを確認して「セット」を押して下さい。



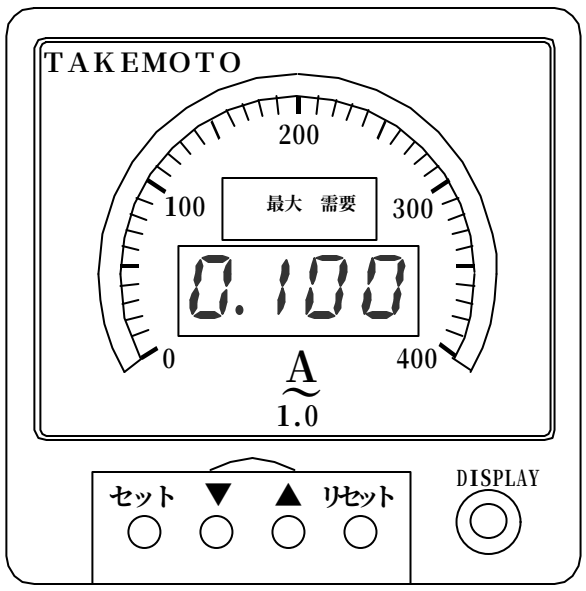
確認ＯＫ

フルスケール設定モード（瞬時点灯，最大点滅）になります。
フルスケール値が変わってないことを確認して、「セット」を押して下さい。

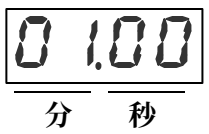


確認ＯＫ

『最大』と『需要』モードが点灯し、デジタル表示器が表示され、時限の設定モードになります。

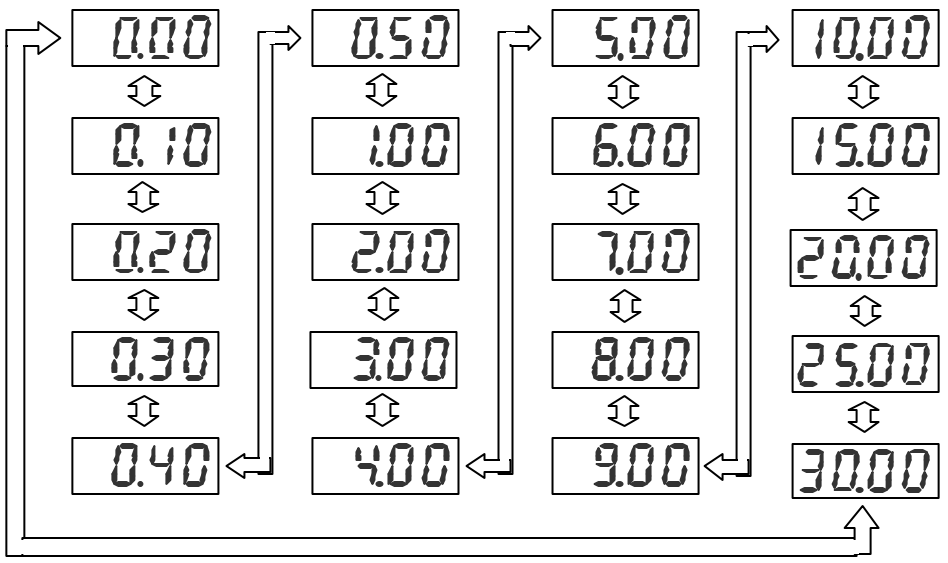


時限は小数点より左に分単位、右に秒単位で表示されます。

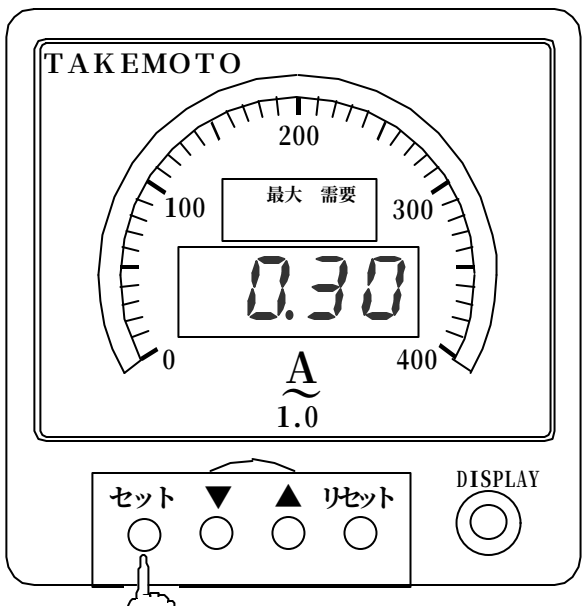


⇨ １分００秒

「▲」又は「▼」で時限を変更できます。



デジタル表示が、設定したい値となれば「セット」を押して下さい。



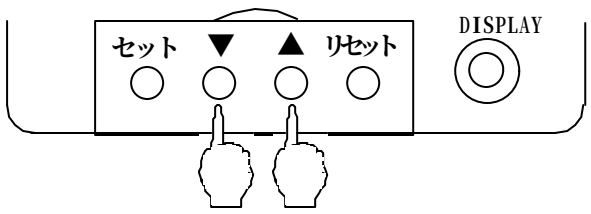
確認ＯＫ

受信計で、時限が０秒以外の場合、バー表示の切換えモードとなります。変更不要の場合は、もう一度「セット」を押して瞬時値表示にして下さい。その他の場合は、瞬時値表示となります。

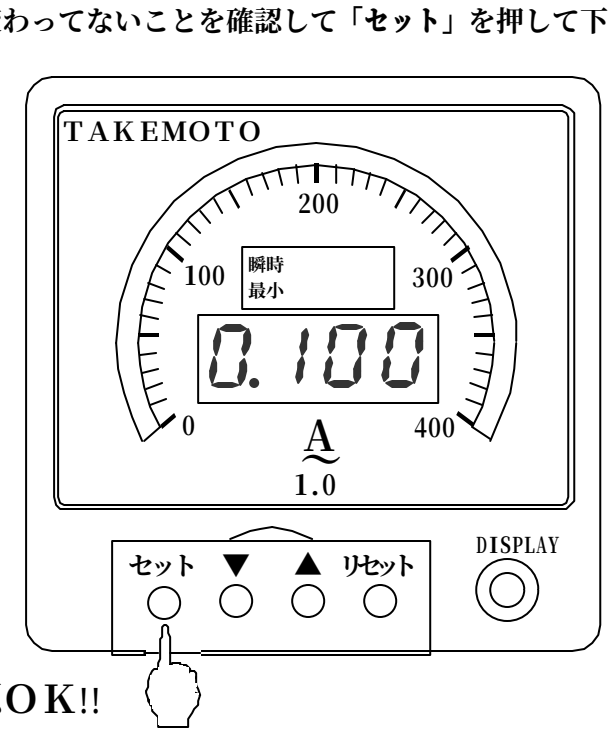
【13】バー表示の切換（受信計のみ）

受信計で、時限が０秒以外の時のみ、バーＬＥＤを瞬時又は需要表示に切換できます。
その他の場合は、バーＬＥＤは需要表示（時限が０秒の時は、需要値＝瞬時値）となります。

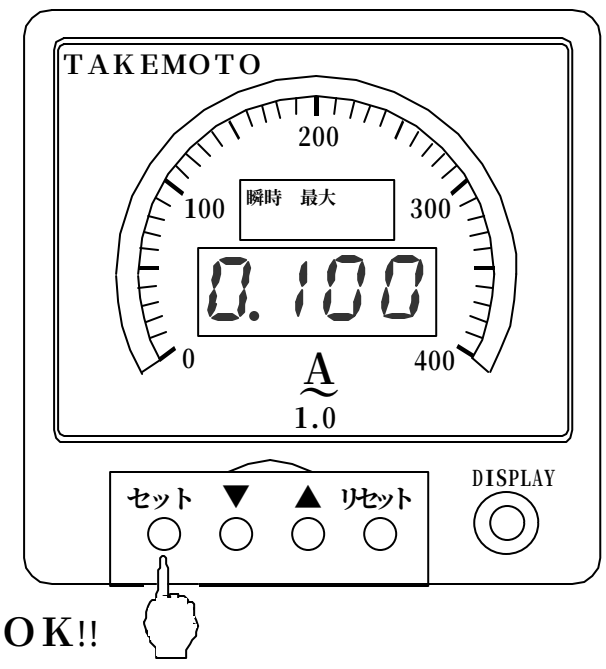
スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に約２秒間押し続けて下さい。



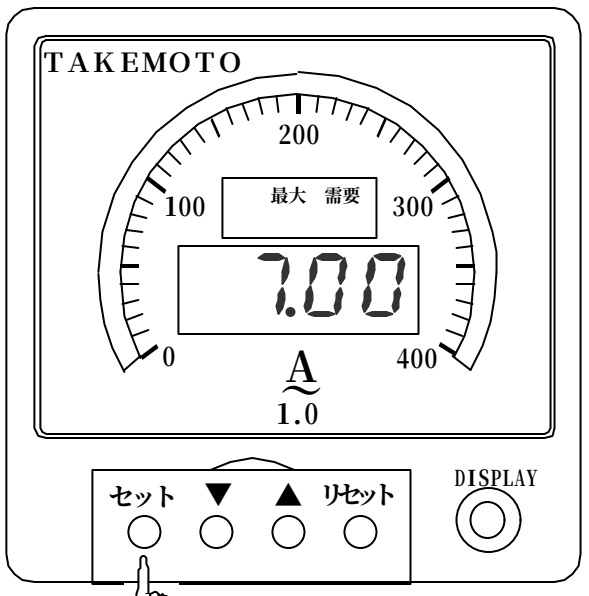
ゼロ設定モード（瞬時点灯，最小点滅）になります。
ゼロ設定が変わってないことを確認して「セット」を押して下さい。



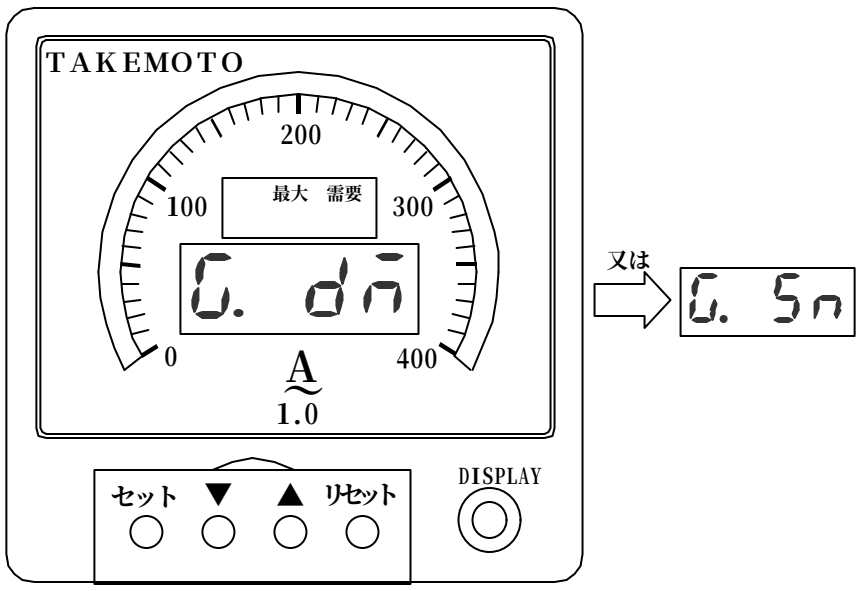
フルスケール設定モード（瞬時点灯，最大点滅）になります。
フルスケール値が変わってないことを確認して、「セット」を押して下さい。



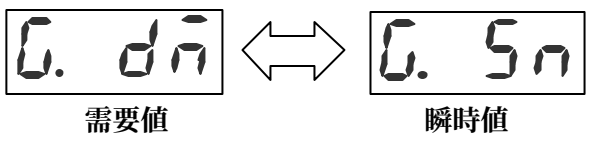
時限の設定モード（最大・需要点灯）になります。
時限が変わっていないことを確認して「セット」を押して下さい。



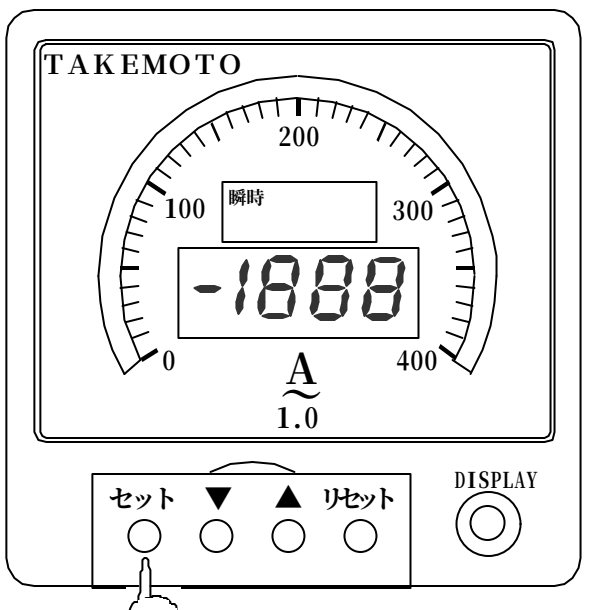
時限が０秒でなければ『最大』と『需要』モードが点灯し、デジタル表示器左端に「G.」が表示され、右に「dn」又は「Sn」が表示され、バー表示切換モードとなります。



「▲」又は「▼」でバー表示を需要値（dn と表示）又は（Sn と表示）に切換ることができます。

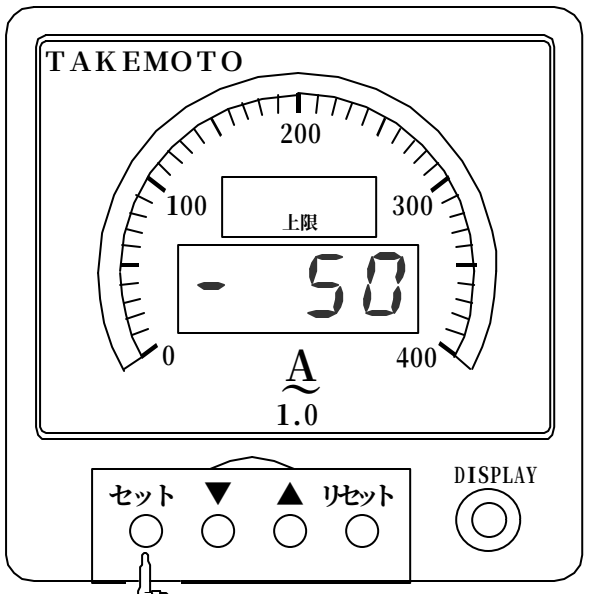


設定したいバー表示になれば「セット」を押して下さい。
瞬時値表示モードになります。



【14】上限及び下限警報の設定

「DISPLAY」を押し、表示モードを『上限』（上限設定時）又は、
『下限』（下限設定時）モードを点灯させます。
デジタル表示器には、設定値が表示されます。
又、通常バーＬＥＤにも設定値が表示されます。

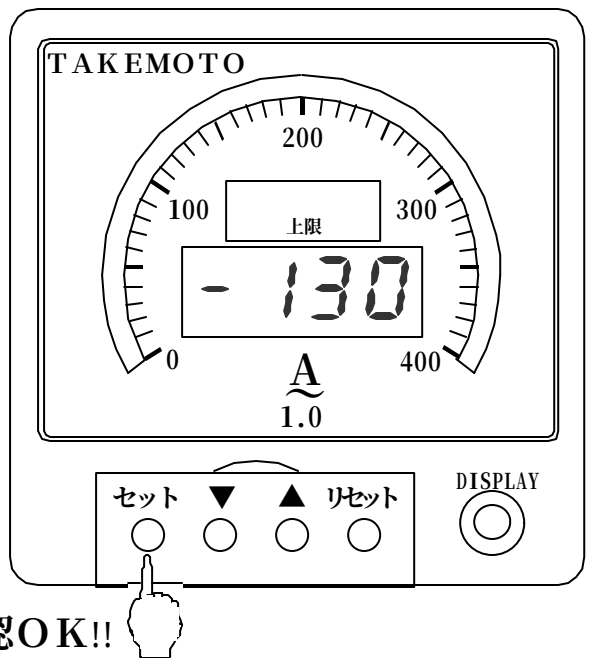


確認ＯＫ!!

「▲」スイッチを押すと、デジタル表示器が大きく（加算）なり、
「▼」スイッチを押すと、小さく（減算）なります。

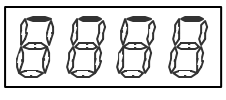
スイッチを押し続けると、連続して表示値が加減算され、さらに押し続ける
と加減算速度が加算されます。

デジタル表示器に設定する値が表示されたら「セット」を押して下さい。
「セット」を押さないと、設定値は変更されません。

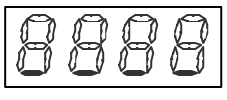


確認ＯＫ!!

警報設定範囲を外れると、範囲外表示（設定不使用）となります。



設定範囲以上



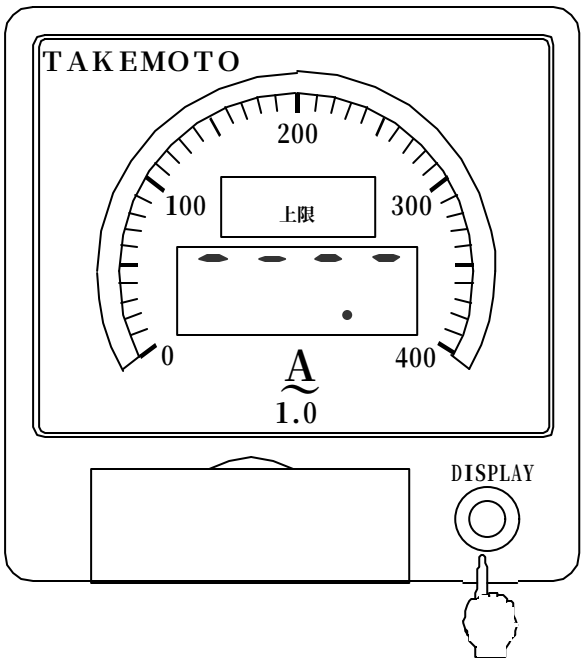
設定範囲以下

設定範囲は
　ゼロ値≦下限設定値≦フルスケール値又は
　ゼロ値－１０％≦下限設定値≦上限設定値≦フルスケール値＋１０％
　　警報範囲切換により切換できます。

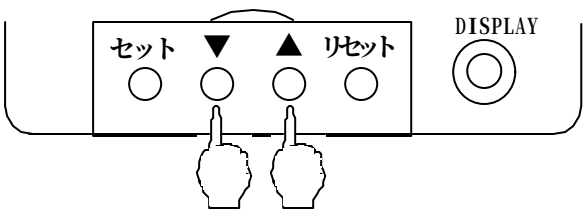
【15】警報出力リレーの出力ディレー時間設定

この設定は、需要値が警報設定値に達してから、出力リレーが動作するまでの時間を設定するものです。需要値が警報設定値に達してから、設定された時間以上、警報出力範囲になっていなければ出力されません。
この設定は、上限・下限警報それぞれに対して設定できます。

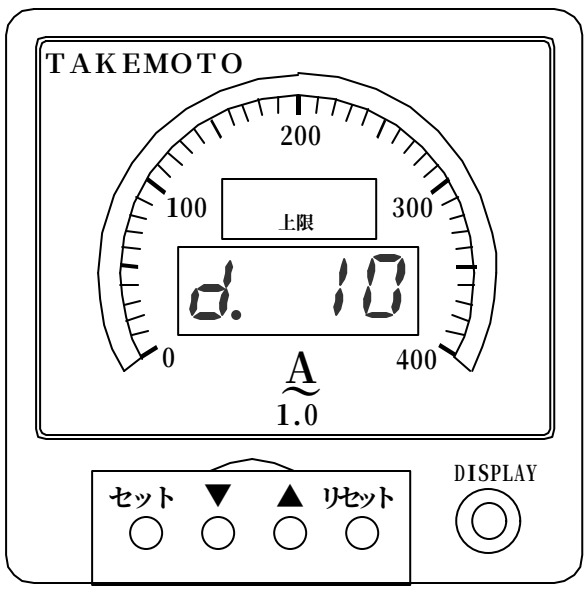
「DISPLAY」を押し、表示モードを『上限』又は『下限』警報設定モードとします。



スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に押して下さい。

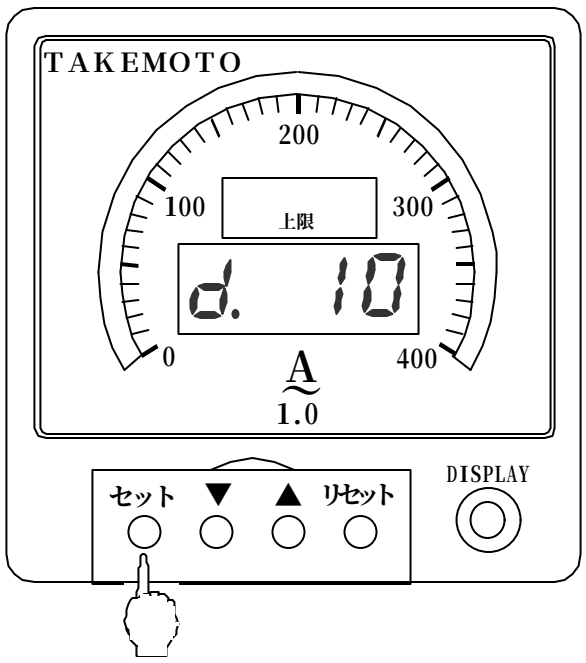


デジタル表示器左端に d. が表示され、右にディレー時間（０～１５秒）が表示されます。

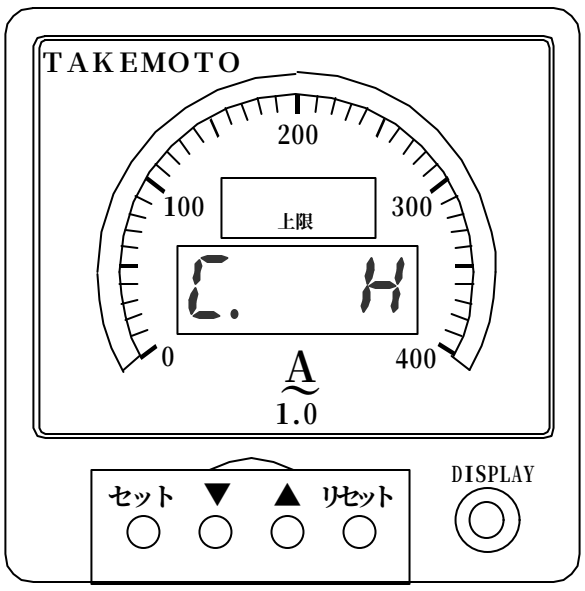


「▲」と「▼」を押すと、ディレー時間を変えることができます。
設定範囲は、０から１５秒です。

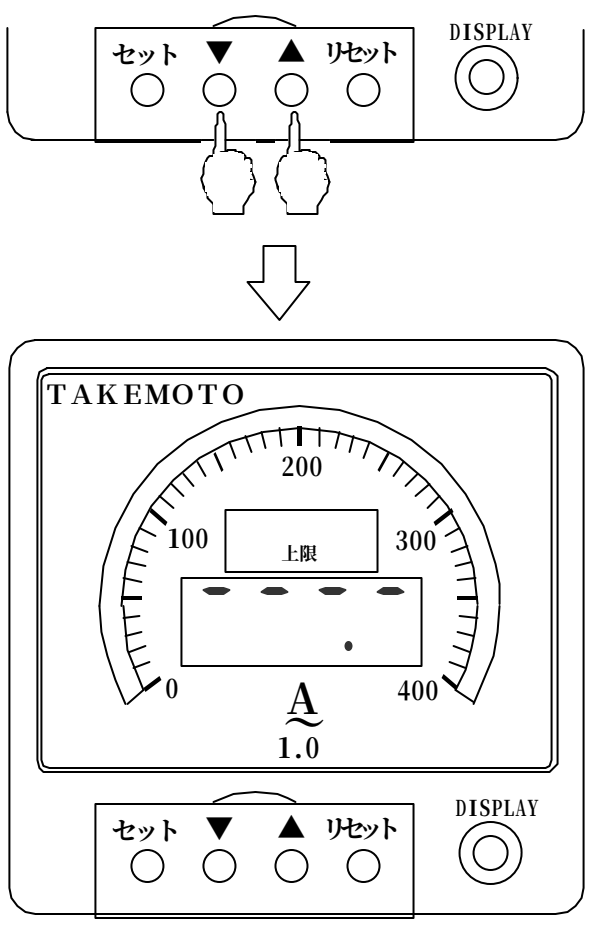
デジタル表示器に、設定する値が表示されたら「セット」を押して下さい。
「セット」を押さないで「DISPLAY」や「▲」と「▼」を同時に押し、他のモードに変えた場合、設定値は変更されません。



警報出力の上限・下限動作切換設定モードになります。



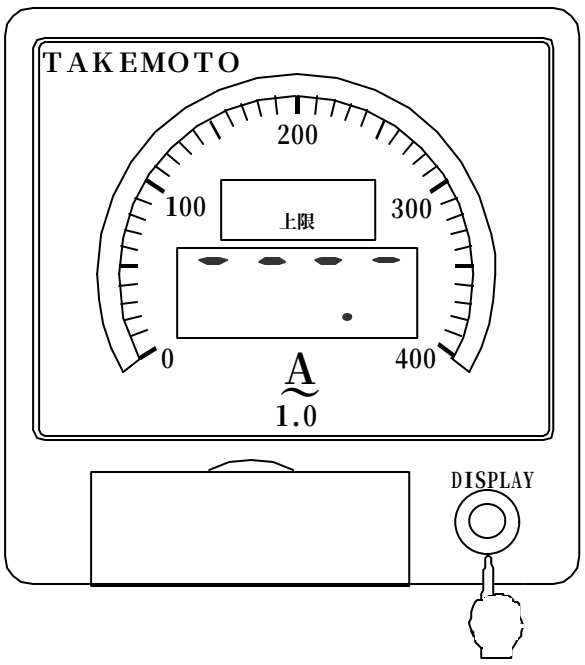
「▲」と「▼」を同時に３回押して、元の警報設定モードにして下さい。



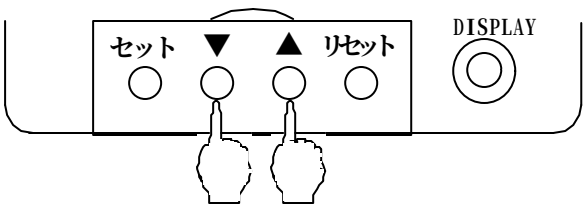
【16】警報動作の上限動作・下限動作切換

この設定は、上限・下限警報のそれぞれに対し、上限動作（需要値が設定値以上になった時出力）又は下限動作（需要値が設定値以下になった時出力）をさせるかを設定します。

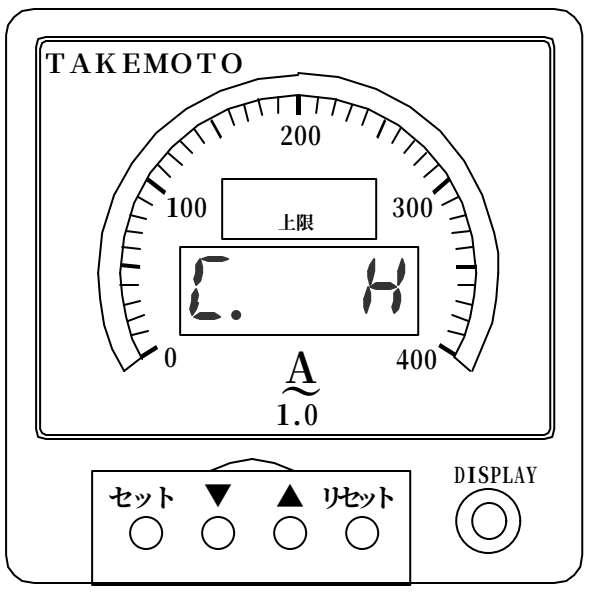
「DISPLAY」を押し、表示モードを『上限』又は『下限』警報設定モードとします。



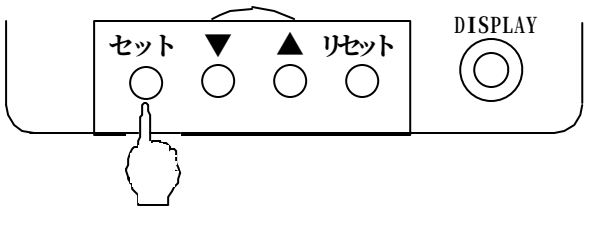
スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に２回押して下さい。



デジタル表示器左端に C. が表示され、右に H 又は L が表示されます。
「▲」又は「▼」で H（上限動作）と L （下限動作）を切換られます。

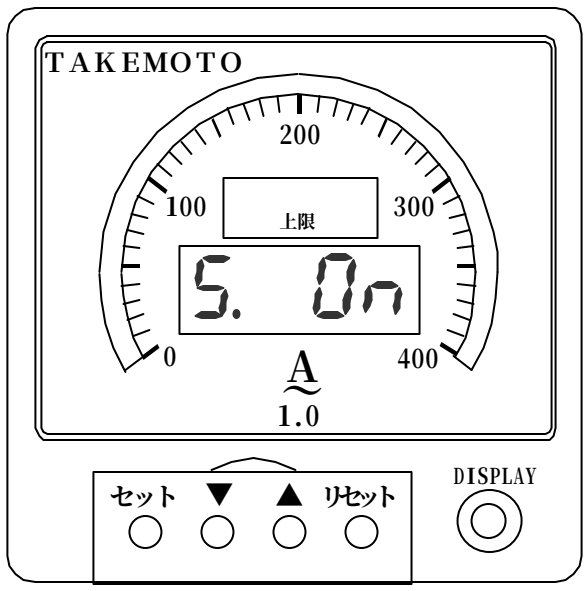


デジタル表示器に、設定する警報動作が表示されたら「セット」を押して下さい。

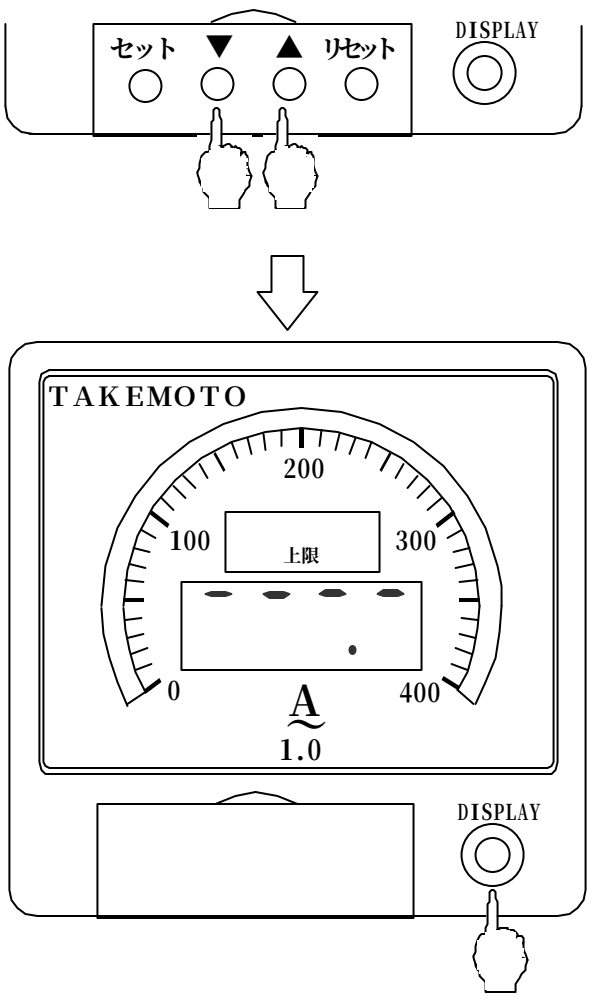


「セット」を押すと、瞬時値表示モードになります。

「セット」を押さないで、「DISPLAY」や「▲」と「▼」を同時に押し、他のモードに変えた場合、設定値は変更されません。



「▲」と「▼」を同時に２回押すと、元の警報設定モードとなります。

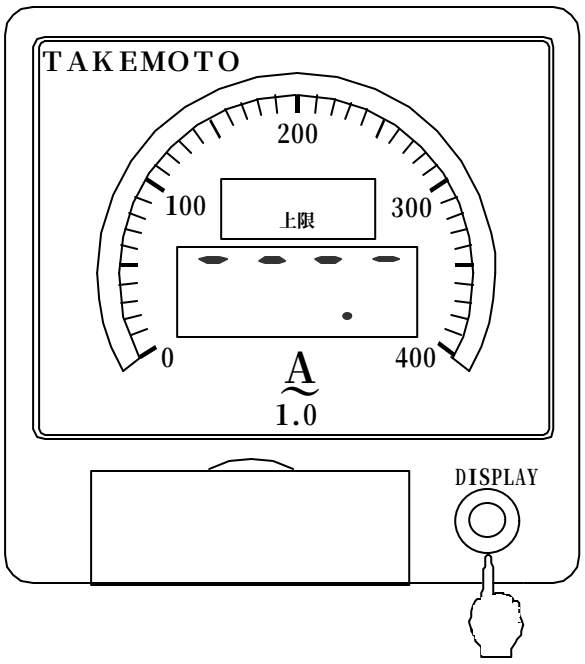


「DISPLAY」を押すと、次の表示モードに変更できます。

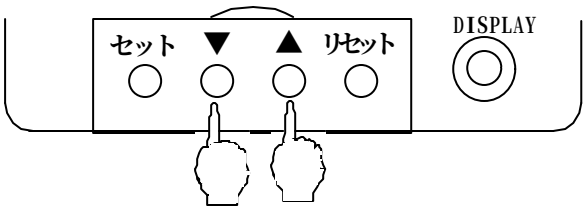
【17】警報動作のＯＮ出力・ＯＦＦ出力切換設定

この設定は、上限・下限警報のそれぞれに対し、警報動作時にリレー出力ａ接点をＯＮさせるか、ＯＦＦさせるかを設定します。

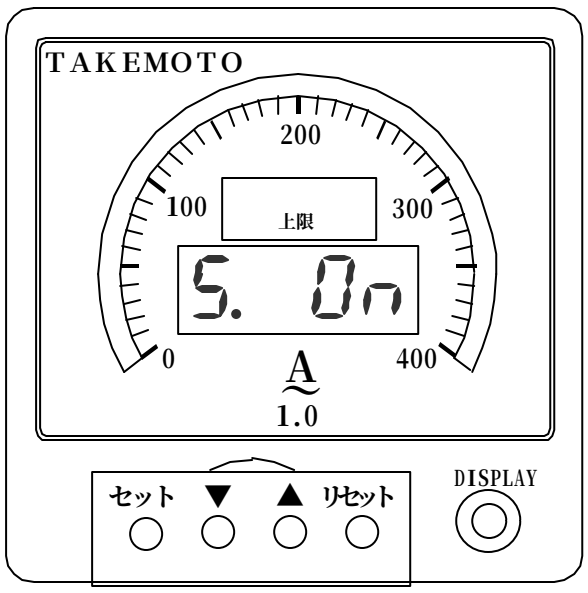
「DISPLAY」を押し、表示モードを『上限』又は『下限』警報設定モードとします。



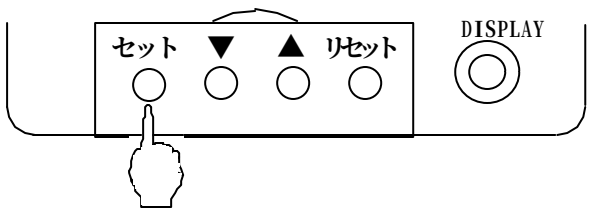
スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に３回押して下さい。



デジタル表示器左端に S. が表示され、右に On又は OF が表示されます。「▲」又は「▼」で On（ON出力通常こちらに設定）と OF（ＯＦＦ出力）を切換できます。

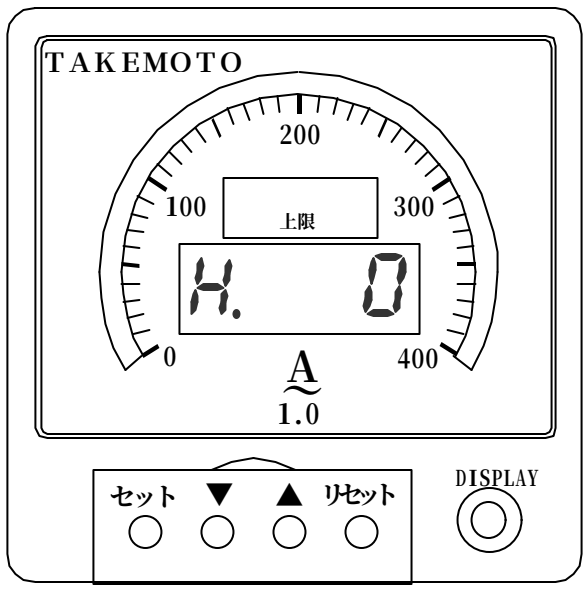


デジタル表示器に、設定する警報出力が表示されたら「セット」を押して下さい。

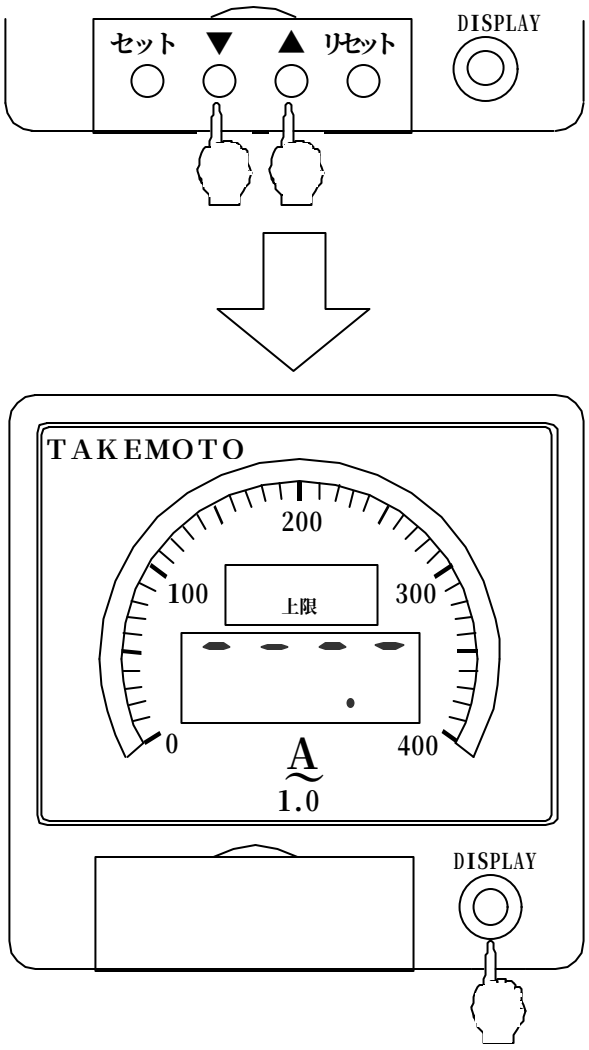


「セット」を押すと警報設定範囲の設定モードとなります。

「セット」を押さないで、「DISPLAY」や「▲」と「▼」を同時に押し、他のモードに変えた場合、設定値は変更されません。



「▲」と「▼」を同時に押すと、元の警報設定モードとなります。

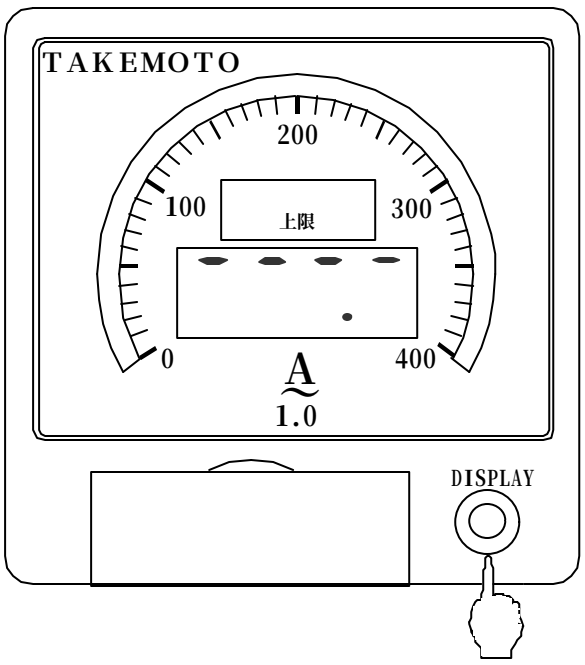


「DISPLAY」を押すと、次の表示モードに変更できます。

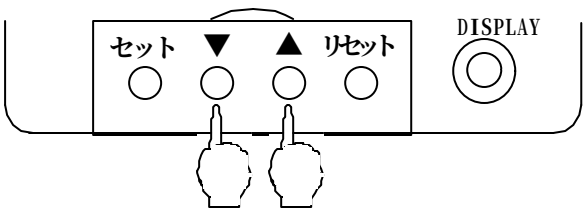
【18】警報設定範囲の設定

この設定は、上限・下限警報のそれぞれに対し、警報設定範囲に切換の設定を行います。

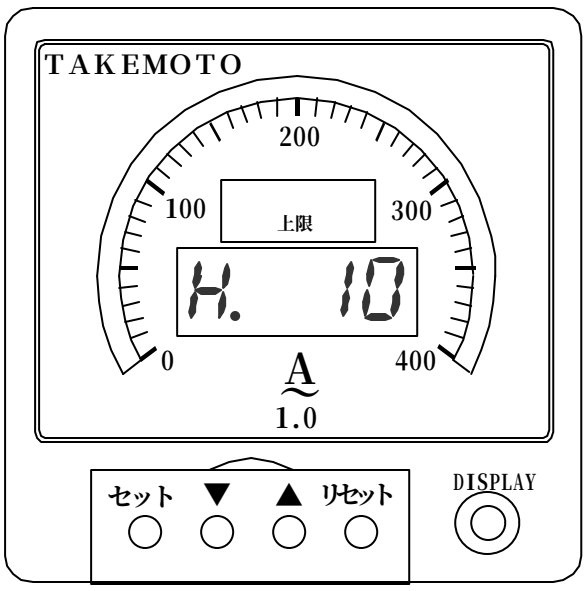
「DISPLAY」を押し、表示モードを『上限』又は『下限』警報設定モードとします。



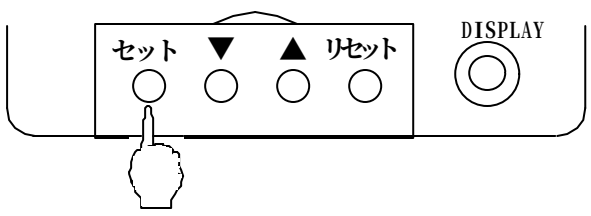
スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に４回押して下さい。



デジタル表示器左端に H. が表示され、右に 0 又は 10 が表示されます。「▲」又は「▼」で 0 （ゼロ値～フルスケール値）と 10 （ゼロ値～フルスケール値の範囲外１０％まで設定可能）の切換ができます。

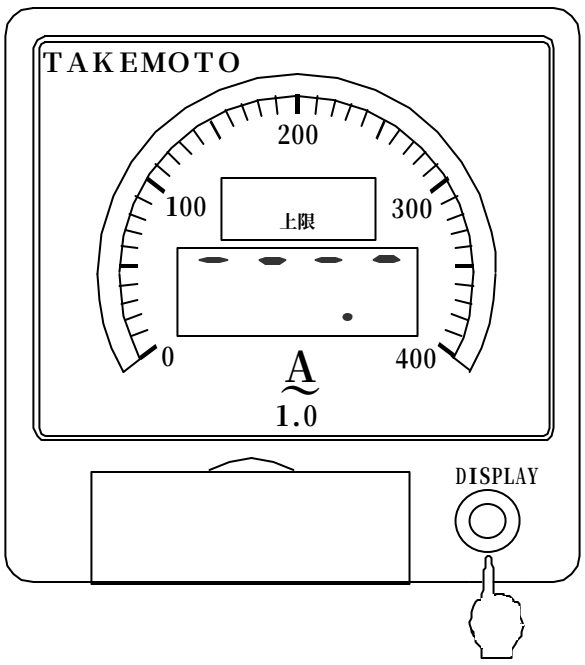


デジタル表示器に、設定する警報出力が表示されたら「セット」を押して下さい。



「セット」を押すと、情報設定モードに戻ります。

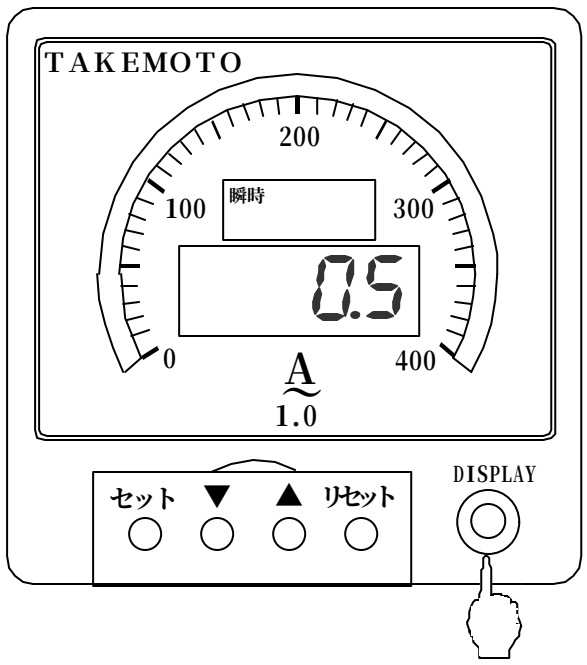
「セット」を押さないで、「DISPLAY」や「▲」と「▼」を同時に押し、他のモードに変えた場合、設定値は変更されません。



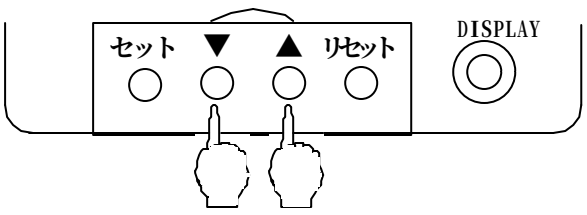
【19】移動平均のサンプルデータ数の設定

この設定は、移動平均するサンプルデータ数を設定します。

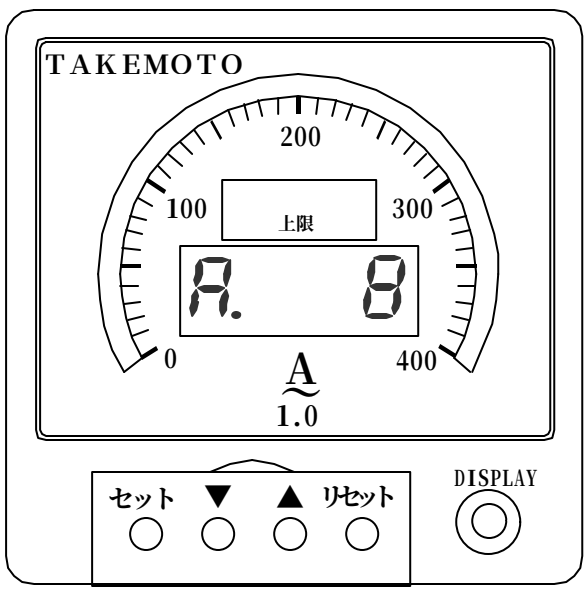
「DISPLAY」を押し、表示モードを『瞬時』とします。



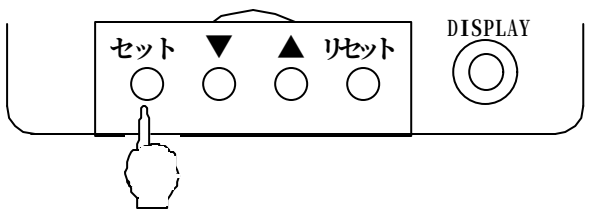
スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に押して下さい。



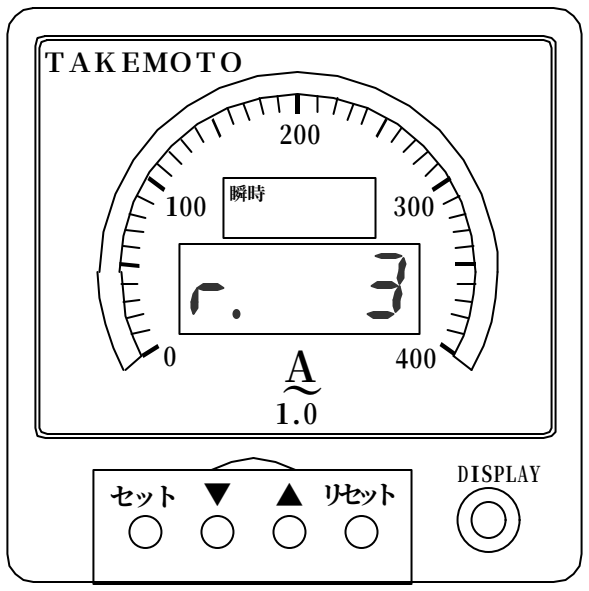
デジタル表示器左端に A. が表示され、右にデータ数が表示されます。
「▲」又は「▼」で、サンプルデータ数を変えられます。設定できるサンプル数は、１，２，４，８，１６です。



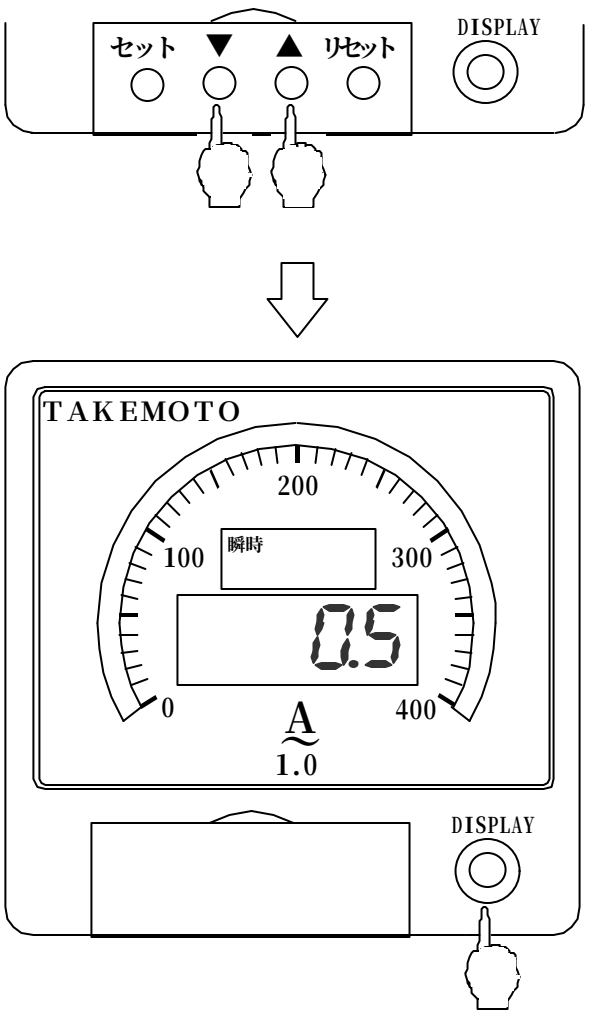
デジタル表示器に、設定する数が表示されたら「セット」を押して下さい。



「セット」を押すと、瞬時値モードとなります。
「セット」を押さないで、「DISPLAY」や「▲」と「▼」を同時に押し、他のモードに変えた場合、設定値は変更できません。



「▲」と「▼」を２回（電圧・電流計）～4 回（受信計）同時に押すと、元の瞬時値表示モードになります。

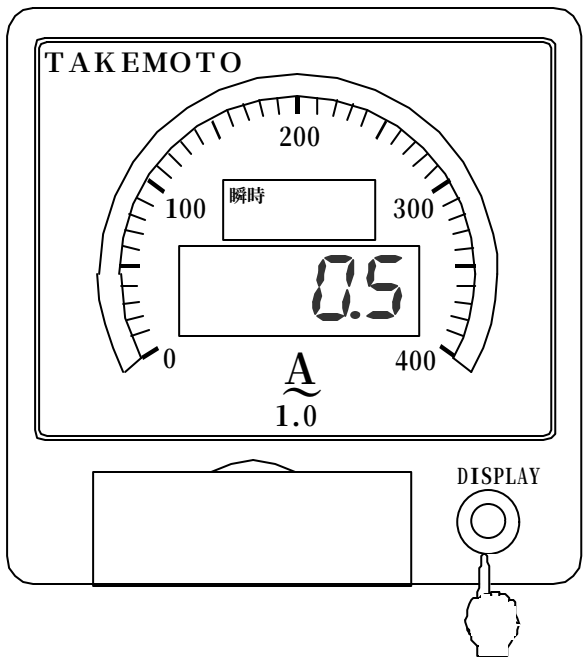


「DISPLAY」を押すと、次の表示モードになります。

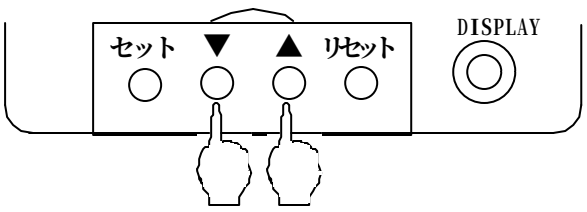
【20】デジタル表示周期の設定

この設定は、デジタル表示器に表示される瞬時値や需要値の表示周期を設定します。

「DISPLAY」を押して、表示モードを『瞬時』とします。



スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に２回押して下さい。

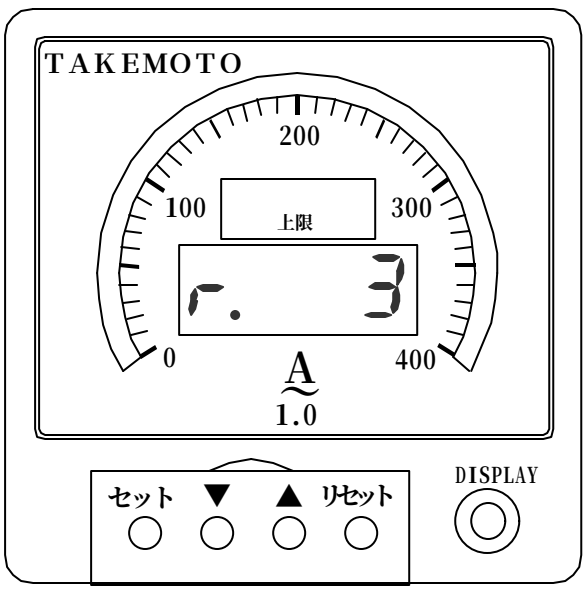


デジタル表示器に　r.　右に、周期１～１５（×１００ｍｓ）が表示されます。

「▲」又は「▼」で表示周期を変えられます。

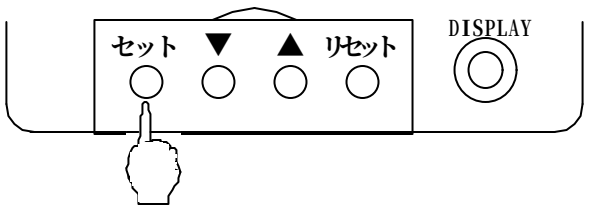
設定できる範囲は１～１５で、この値は、何回のサンプリングに対し、１回の表示するかを表します。

例えば、３に設定した場合３回のサンプリングに対して１回　つまり１００m秒×３＝３００m秒毎に表示が行われます。



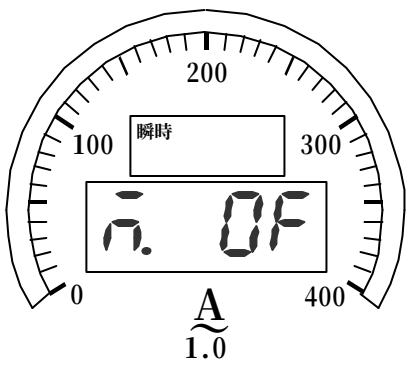
デジタル表示器に設定する数が表示されれば、「セット」を押して下さい。

「セット」を押さないで、「DISPLAY」や「▲」や「▼」を同時に押して、ほかのモードに変えた場合、設定値は変更されません。

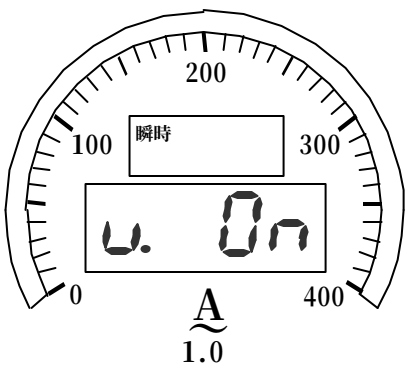


「セット」を押すと、受信計はマイナス表示設定モードに電圧・電流計は、まるめ設定モードになります。

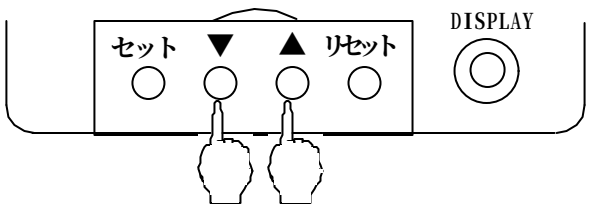
受信計
（マイナス表示設定モード）

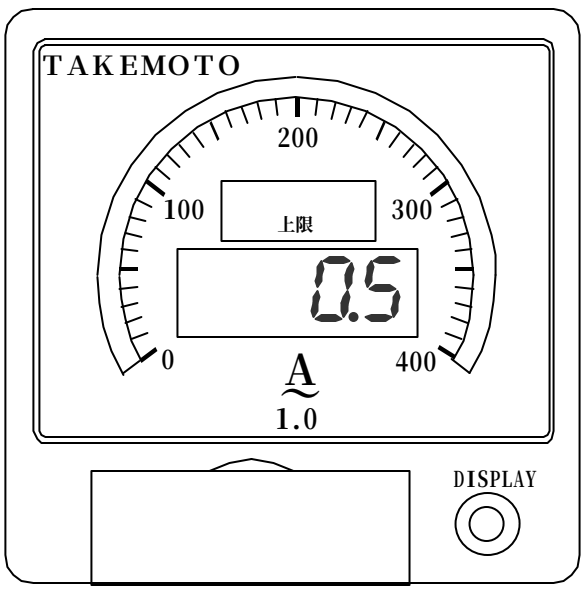


電圧・電流計
（まるめモード）



「▲」と「▼」を同時に１回（電圧・電流計），３回（受信計）同時に押すと元の瞬時値設定モードになります。



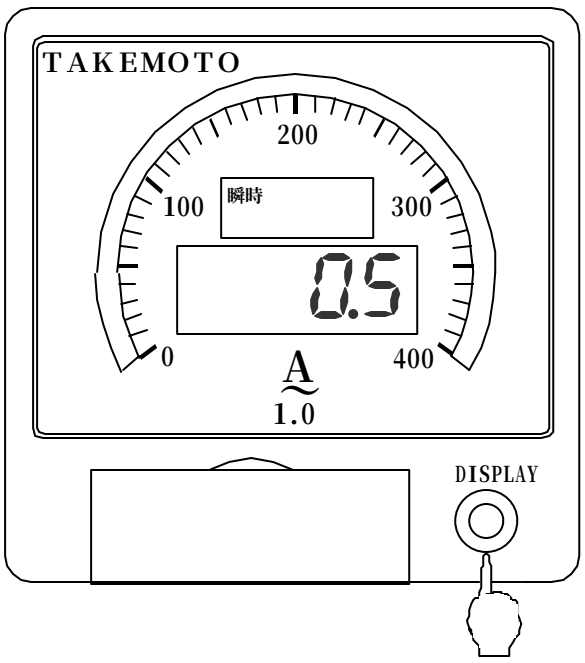


「DISPLAY」を押すと、次の表示モードに変更できます。

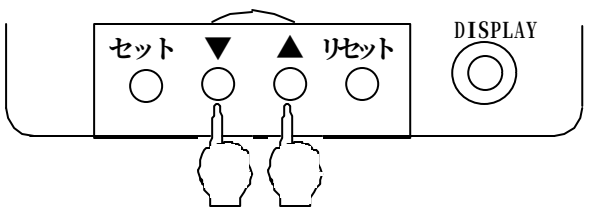
【21】マイナス表示の設定（受信計のみ）

この設定は、入力信号が入力信号のゼロ値以下となった時、デジタルゼロ値を表示するか、デジタルゼロ値以下の数値を表示するかを設定します。又、入力信号が、入力信号のゼロ値及びスパン値より１０％以上外れた場合 Lo 及び HI 表示するかを設定します。

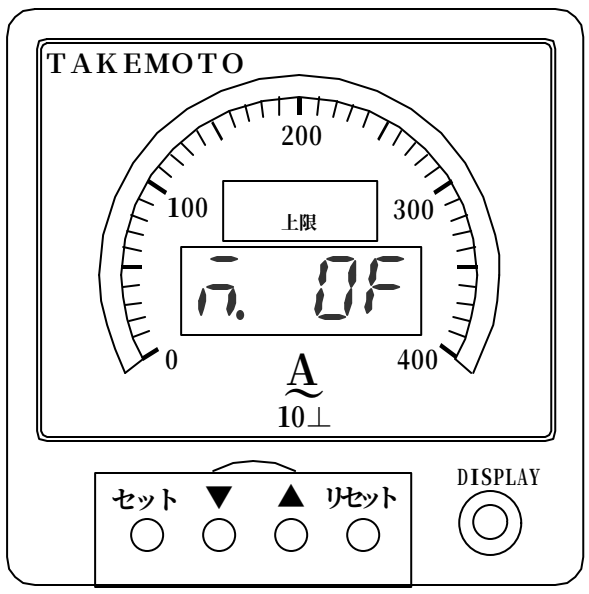
「DISPLAY」を押し、表示モードを『瞬時』とします。



スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に３回押して下さい。



デジタル表示器左端に A. 右に On 又は OF が表示されます。



A.L On

『On』・・・ゼロ値以下はゼロ値表示

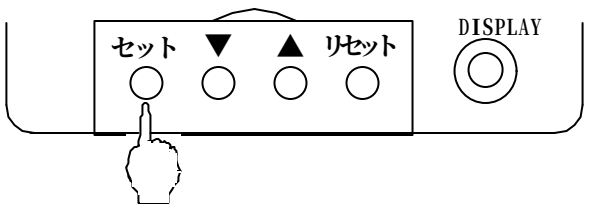
『OF』・・・ゼロ値以下も数値表示

『L』・・・「HI 」「Lo」を表示

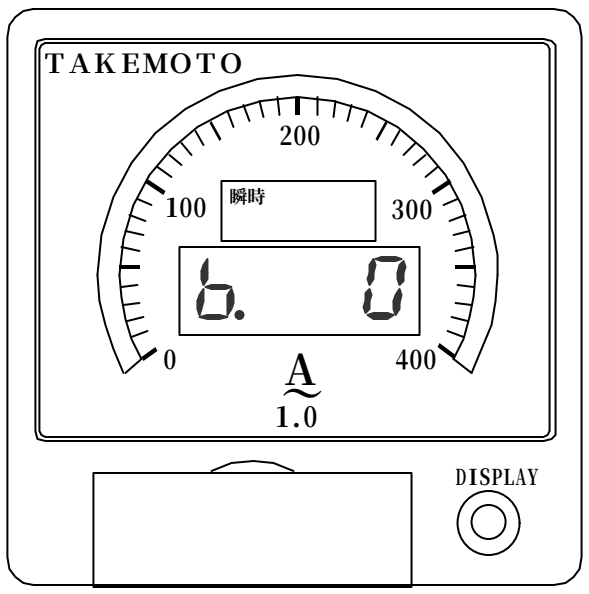
『 』・・・１０%以外，外れても表示しない

デジタル表示器に設定するマイナス表示が設定されれば、「セット」を押して下さい。

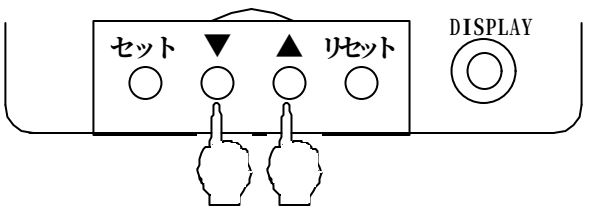
「セット」を押さないで、「DISPLAY」や「▲」と「▼」を同時に押して、ほかのモードに変えた場合設置設定は変更されません。

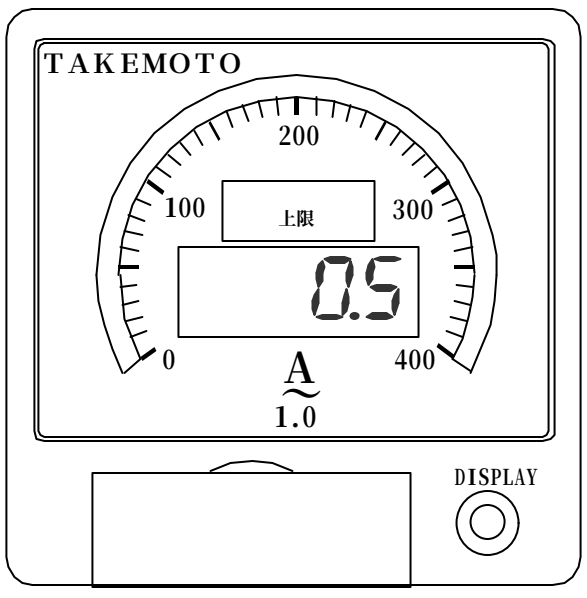


「セット」を押すと、バーゼロ位置設定モードになります。



「▲」と「▼」を同時に２回押すと、元の瞬時値設定モードになります。



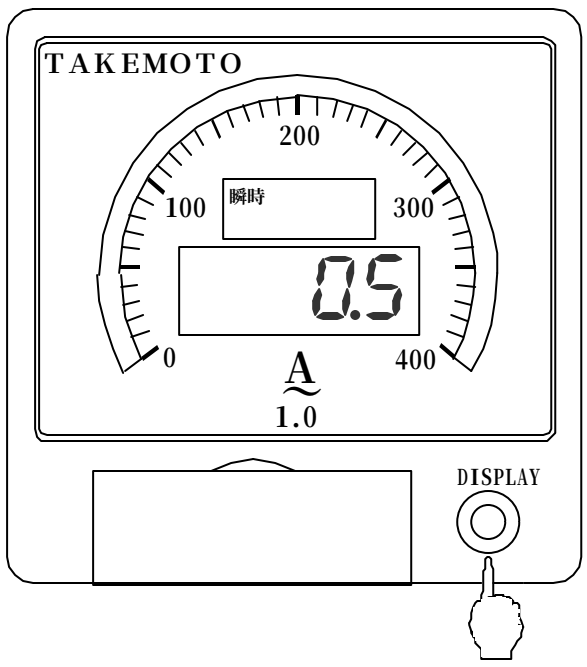


「DISPLAY」を押すと、次の表示モードに変更できます。

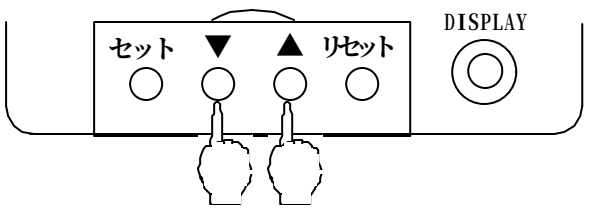
【22】バーゼロ点の設定

この設定は、バーＬＥＤの原点を設定します。バーＬＥＤは、この原点を中心に左右に点灯します。受信計のみ設定可能です。

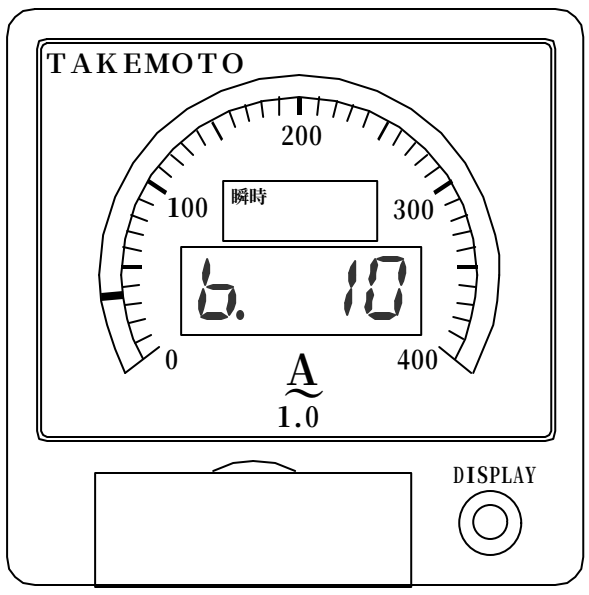
「DISPLAY」を押し表示モードを『瞬時』とします。



スイッチカバーを開け、「▲」と「▼」を同時に４回押して下さい。

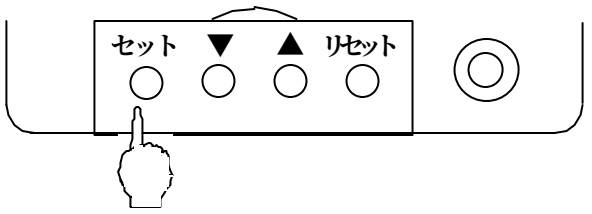


デジタル表示器左端に b. 右にバーゼロ点位置０～１００が表示されバーＬＥＤは、ゼロ位置のバー１本のみ点灯します。

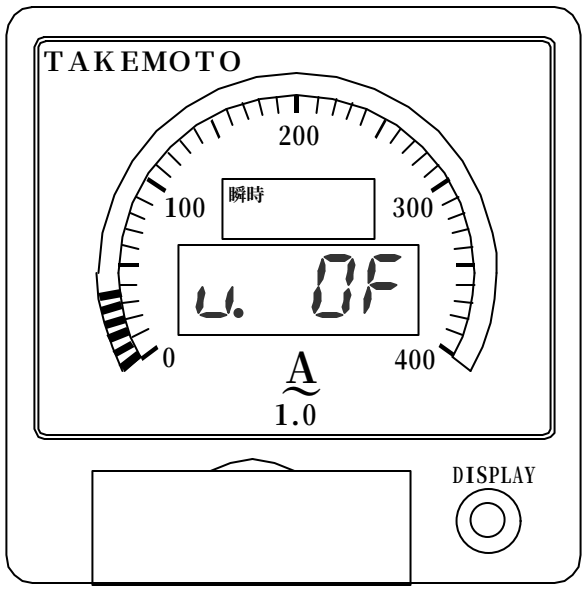


「▲」又は「▼」でバー位置を変更できます。
バー位置は、バーＬＥＤとデジタル表示の両方で行われます。
設定範囲は、０（左端）から、１００（右端）までです。

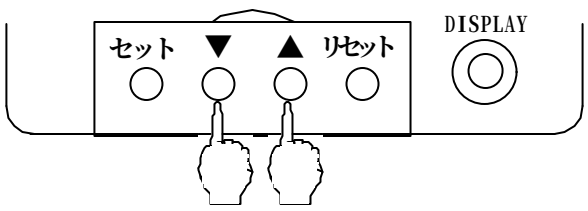
設定するゼロ点バー位置が表示されれば、「セット」を押して下さい。
「セット」を押さないで、「DISPLAY」や「▲」と「▼」を同時に押して他のモードに変えた場合、設定値は変更されません。

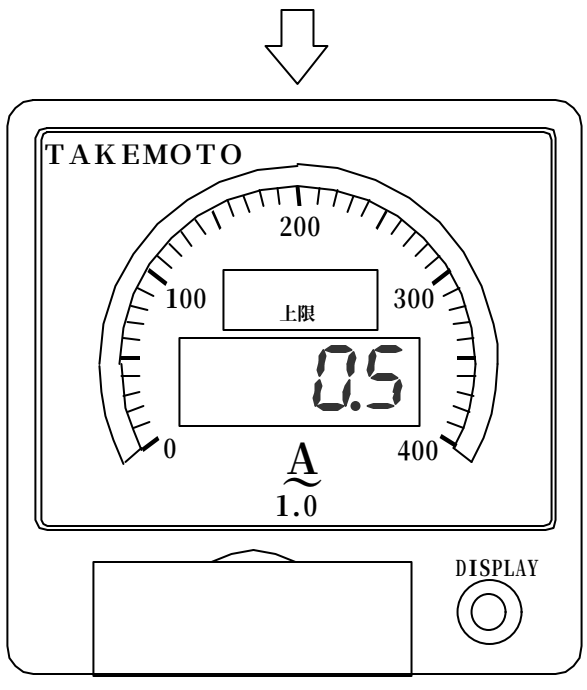


「セット」を押すと、最小単位まるめの設定モードになります。



「▲」と「▼」を同時に押すと、元の瞬時値表示モードになります。





「DISPLAY」を押すと、次の表示モードに変更できます。

【23】最小単位のまるめ設定

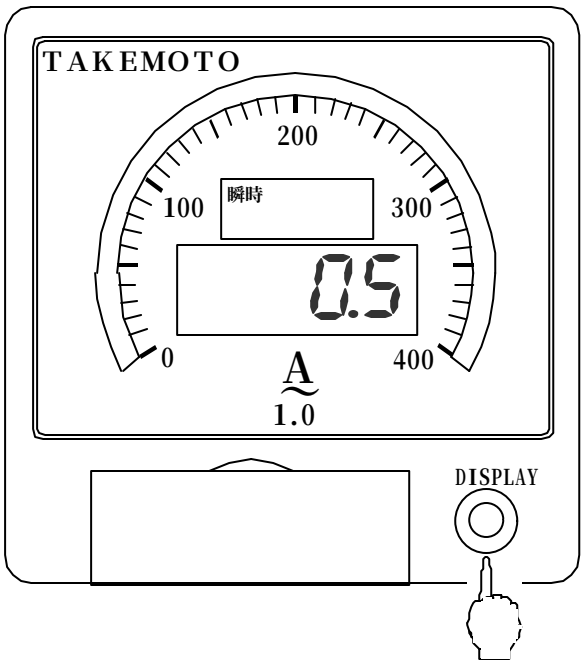
この設定は、最下位桁の表示を、１・２・５単位にまるめ（四捨五入）表示するかどうかを設定します。

２単位のまるめ　　最下位桁は、０・２・４・６・８のみ表示

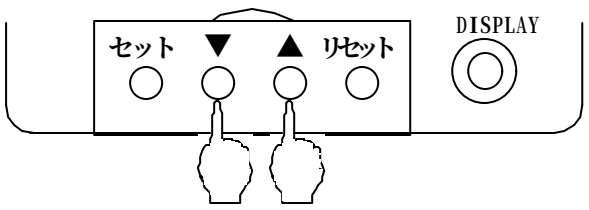
５単位のまるめ　　最下位桁は、０・５のみ表示

まるめ表示を設定した場合、ゼロ値とフルスケール値により、１・２・５・１０・２０の各最小単位にまるめ表示されます。

「DISPLAY」を押し、表示モードを『瞬時』とします。

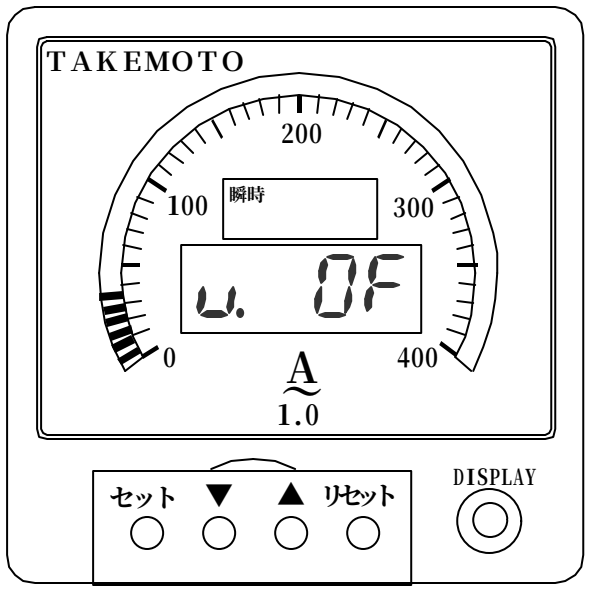


スイッチカバーを開け「▲」と「▼」を同時に３回（電圧・電流計）～５回（受信計）押します。



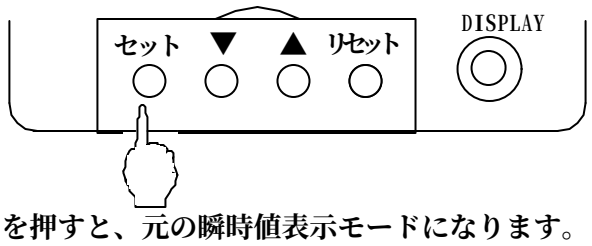
デジタル表示器左端に U. 右に On 又は OF が表示されます。

「▲」又は「▼」で　On（まるめ付）　OF（まるめなし）を切換られます。

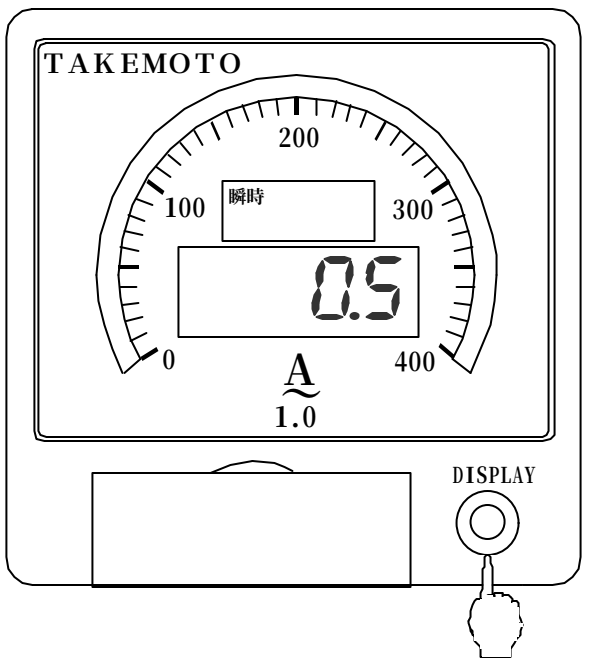


デジタル表示に設定するまるめ設定が表示されれば「セット」を押して下さい。

「セット」を押さないで、「DISPLAY」や「▲」と「▼」を同時に押して、他のモードに変えた場合は、設定値は変更されません。

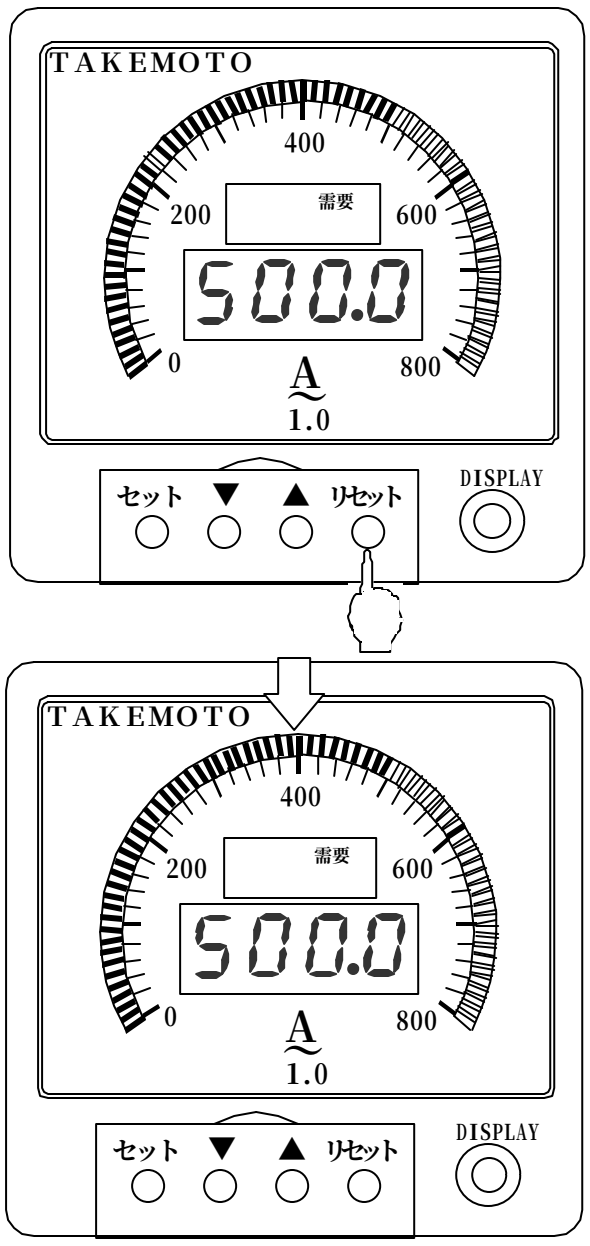


「セット」を押すと、元の瞬時値表示モードになります。

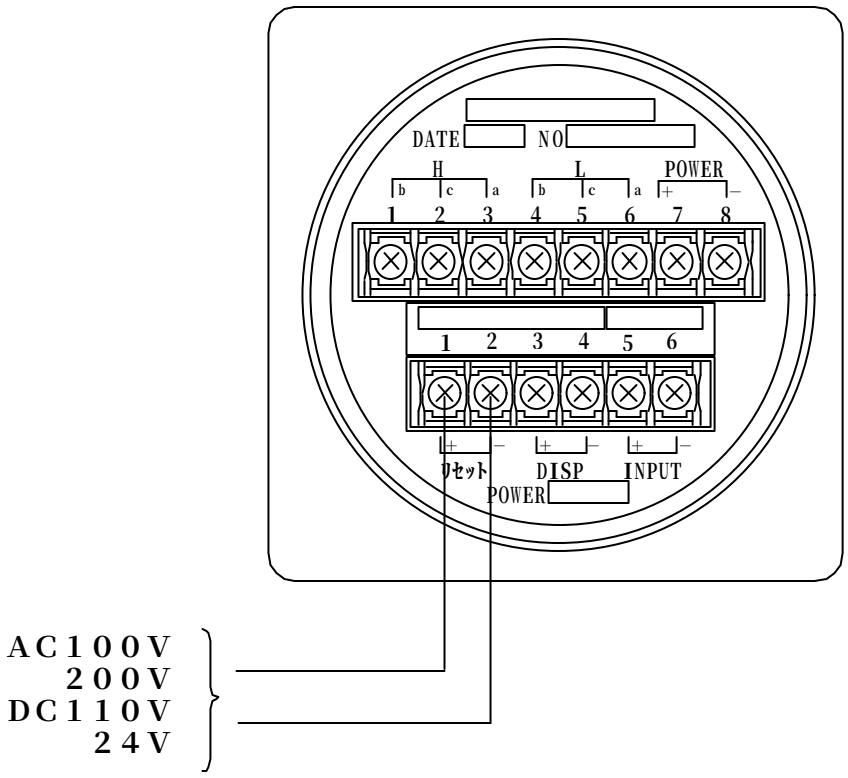


【24】最大・最小残針のリセット

スイッチカバーを開け「リセット」を約１秒間押し続けると、最大及び最小残針を現在の需要位置にセットできます。



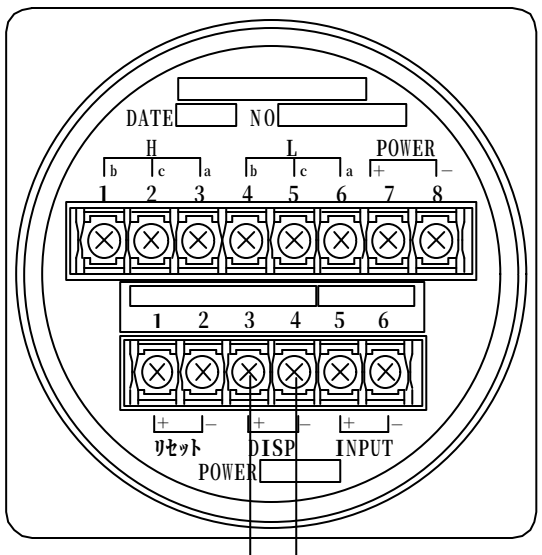
ケース後部の端子台「RESET」の「＋」と「－」間に、銘板記入の電圧（ＡＣ１００Ｖ・ＡＣ２００Ｖ又はＤＣ１１０Ｖ）と同一の電圧を約５００m秒以上加えると、最大及び最小残針を現在の需要値にセットできます。



いずれかを５００m秒以上加える

【25】外部よりの表示切換

ケース後部の端子台「DISP」の「＋」と「－」間に、銘板記入の電圧（ＡＣ１００Ｖ・ＡＣ２００Ｖ又はＤＣ１１０Ｖ）と同一の電圧を約２００m秒以上加えると、表示モードを切換えることができます。



いずれかを２００m秒以上加える。

AC１００Ｖ
２００Ｖ
DC１１０Ｖ
２４Ｖ

外部よりの表示切換えは、ケース前面の DISPLAY スイッチと同一の機能を有しています。

【26】警報出力の表示

現在の需要値が、上限警報又は、下限警報の報告範囲（上限動作の場合設定値以上，下限動作の場合設定以下）となり警報が出力された時、『上限』・『下限』の表示が、点滅表示します。

⚠使用上の御注意

◇　本取扱説明書をよく読んでから御使用下さい。

◇　本体は精密機器ですので、落さないようにして下さい。

◇　本体を分解、改造はしないで下さい。

◇　本体に雨水等が直接かからないようにして下さい。

◇　本体の汚れ・ホコリ等を拭きとる場合は乾いた布で拭きとって下さい。

汚れがひどい場合は、固く絞った濡れ雑巾で拭きとって下さい。

ベンジン・アルコール・シンナーは絶対に使用しないで下さい。

◇　本体内にごみ等が入る恐れがある作業を行なう場合は、本体にカバーをして異物が入らないようにして下さい。

◇　本体を直射日光が当たる場所、湿度の異常に高い場所・異常に低い場所、湿気や塵埃の多い場所へ設置しないで下さい。

◇　端子台への配線は圧着端子を使用して確実に締めて下さい。

◇　定格を超えた電圧や電流を加えないで下さい。

◇　制御電源が停電時は表示は消え、出力が０になります。

◇　活線状態では端子部に手を触れないで下さい。感電の危険性が有ります。

◇　活線状態ではＣＴ２次側からの入力線は、決してオープン（開放）にしないように注意して下さい。オープンにするとＣＴ２次側に高電圧が発生しＣＴを破壊する原因となります。

◇　活線状態ではＶＴ２次側からの入力線は、決してショート（短絡）しないで下さい。

◇　最小指針について

最小の指針及び、力率表示形のＬｅａｄ側残針は、停電時や入力信号が本計器電源より後に入った場合は、本計器が“０”又はＬｅａｄ最大値付近まで振れますので、残針が０又はＬｅａｄ最大付近を表示します。お手数ですが、入力信号入力後、残針のリセット処理をお願いします。

◇　力率表示形受信指示計について

力率表示形力率受信指示計の取扱方法は、一般の受信指示計とは異なり、電圧計、電流計と同じ取扱方法となりますので、電圧、電流計の項目をご覧下さい。

ＲＧ－１００シリーズ

日　付	改訂者	改　訂　内　容
1997/9/25		初版
2001/6/6	山口	第一版 P1,2　【3】【4】電源仕様変更 誤記修正
2002/2/8	山口	第二版 P2 設定スイッチ　→　セットスイッチ P9（最小表示値）　→　最大表示値 P23 図の修正